



山口市亀山周辺・中心市街地 活性化アクションプラン



このプランは、令和5年に山口県が公募された「山口県持続可能なまちづくり集中支援事業」の採択を受け、県の支援をいただきながらとりまとめたものです。

2025年（令和7年） 10月

亀山周辺・中心市街地まちづくり・アクション会議

目次

1 はじめに

- (1) 目的と位置付け
- (2) 検討体制と経緯

2 対象エリアの現状

- (1) 対象エリアの範囲
- (2) エリアの概要
- (3) エリアにおけるこれまでの取組
- (4) エリアの現況分析
- (5) エリア関係者の声の整理
- (6) エリアにおける魅力と課題

4 実現化方策

- (1) まちづくり推進に向けた考え方
- (2) エリアで生み出したい“シーン”的設定
- (3) “シーン”を生み出す“アクション”的設定

5 今後の推進体制

3 エリアの目指す方向性

- (1) アクションプランの基本方針

(1) 目的と位置付け

(1)目的と位置付け
(2)検討体制と経緯

2 対象エリアの
基本情報

3 エリアの目指す
方向性

4 実現化方策

5 今後の
推進体制

① 山口市亀山周辺・中心市街地活性化アクションプランの目的

本プランは、行政・文化・教育機能が集積する「亀山周辺ゾーン」と、商業・業務機能が集積する「中心商店街ゾーン」で構成された中心市街地において、山口市が官民一体となって目指す「文化・教育・商業機能等の価値向上によるずっと元気な『まちなか』づくり」を実現するための具体的な取組を提案するものです。

本プランでは、民間を含む多様な主体の参画による既存の計画・構想に基づくまちづくりの取組等の具体化を進めるため、まちづくりの基本的な方向性やその方向性に基づく“アクション”などを示します。

【官民一体となったまちづくりのイメージ】

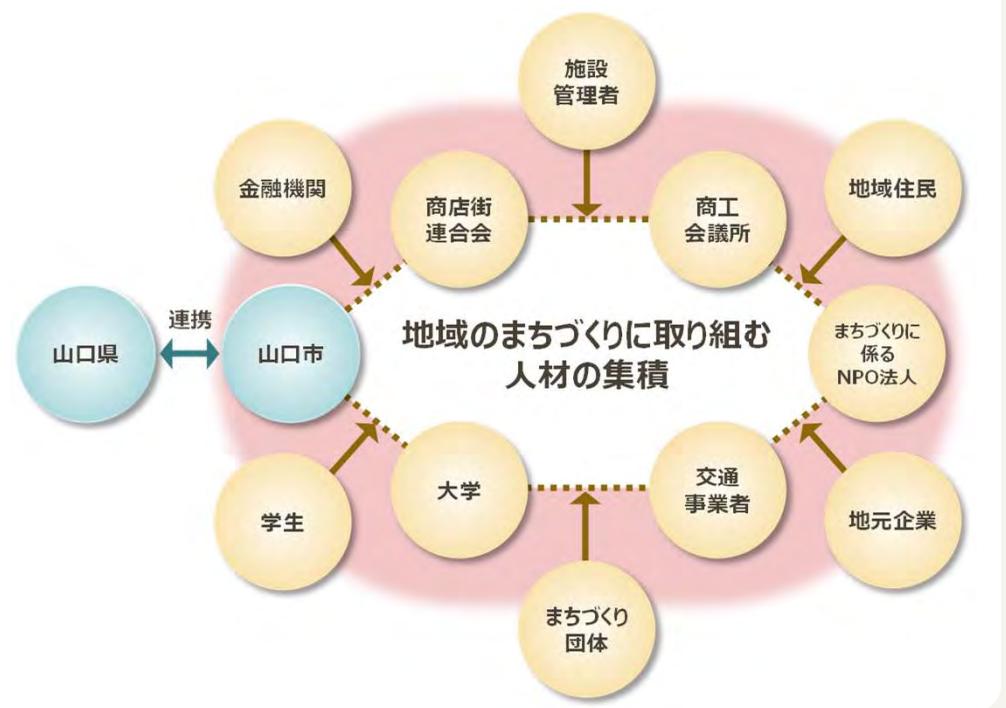
- 少子高齢化の進行
- 消費・経済規模の縮小
- 地域住民のニーズや課題
が多様化・複雑化

行政主導による「従来型のまちづくり」から
の転換が必要

- 中心市街地などを対象とした各種計画等が策定されているが、事業実施に至っていないものもある

中心市街地などの関係者や行政が一体となり、
具体的な検討や協議をする場が必要

「官民一体となったまちの更なる活性化」を目指し、
取組の具体化に向け、「山口市亀山周辺・中心市街地活性化アクションプラン」をとりまとめる



(1) 目的と位置付け

(1)目的と位置付け
(2)検討体制と経緯

2 対象エリアの
基本情報

3 エリアの目指す
方向性

4 実現化方策

5 今後の
推進体制

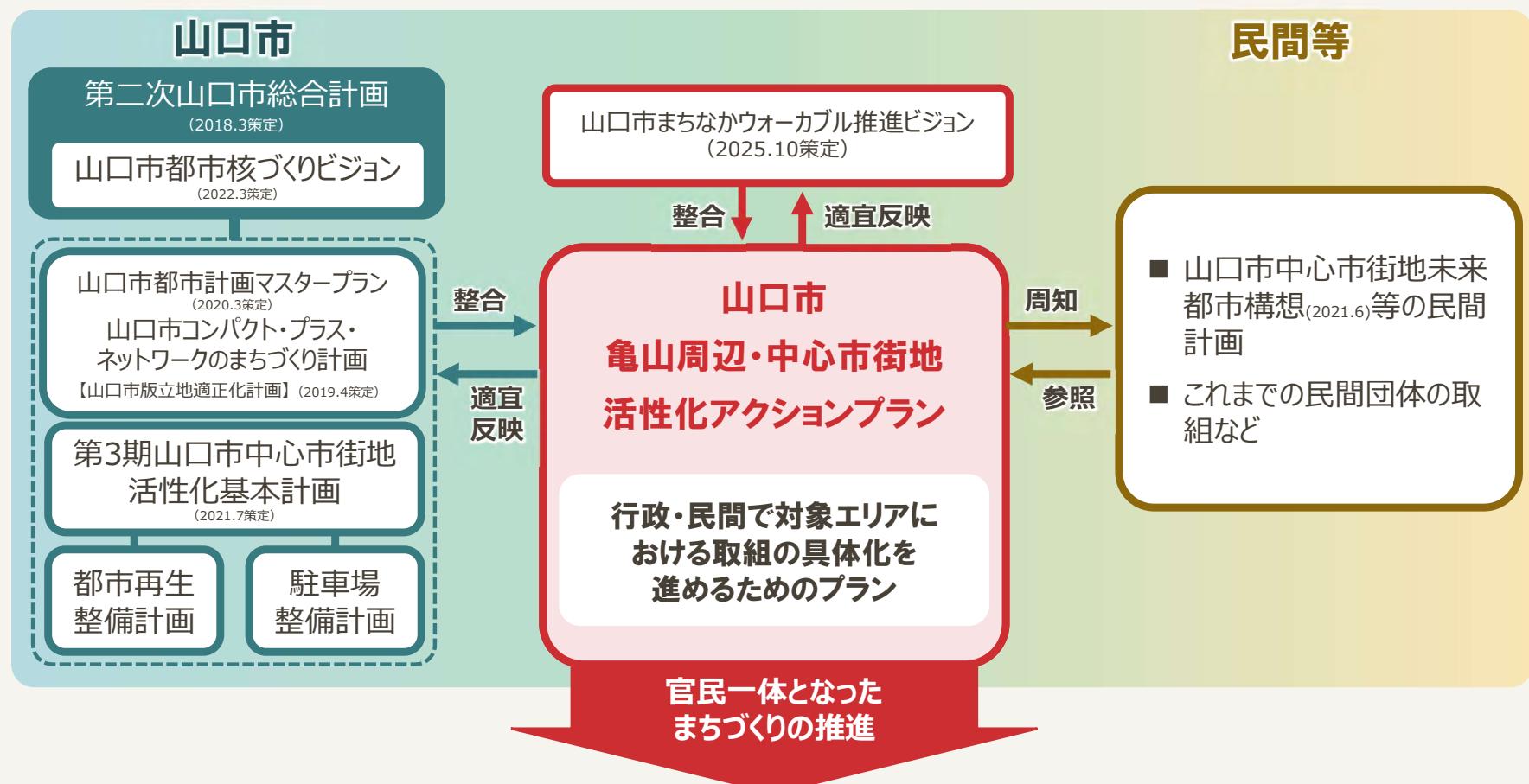
② 本プランの位置付け

本プランは、市の上位計画である「第二次山口市総合計画」、対象エリアに関連する「山口市都市核づくりビジョン」や「第3期山口市中心市街地活性化基本計画」などの関連計画(※)との整合性を図り策定しています。

事業者や地域住民などに対しては、本プランを各種事業・取組を検討する際の指針として活用していただくことにより、対象エリアにおける官民一体となつたまちづくりの推進を図ります。

(※)各計画の概要は、p.9の「エリアにおけるこれまでの取組経緯」にて紹介します。

【本プランの位置付けイメージ】



文化・教育・商業機能等の価値向上による ずっと元気な『まちなか』づくり

(2) 検討体制と経緯

(1)目的と位置付け
(2)検討体制と経緯

2 対象エリアの
基本情報

3 エリアの目指す
方向性

4 実現化方策

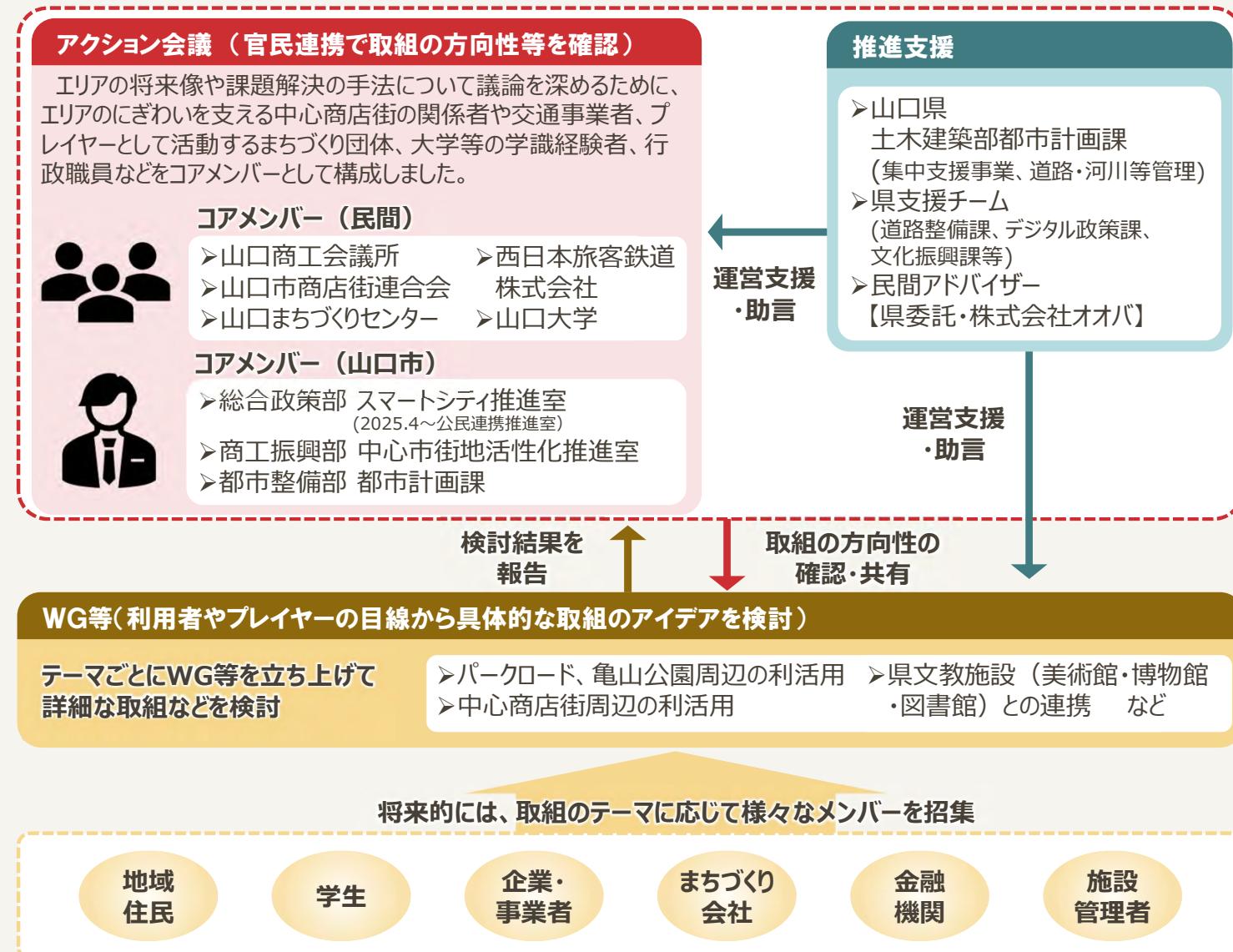
5 今後の
推進体制

① 検討体制

本プランの取りまとめにあたっては、対象エリアのまちづくりの関係者や有識者などで構成する「亀山周辺・中心市街地まちづくり・アクション会議」を組織し、既存計画や対象エリアの現状を踏まえたまちづくりの方向性などの確認を行いました。

そして、アクション会議での議論を踏まえ、テーマ別の検討組織となるワーキンググループ（以下、WG）を設置し、利用者やプレイヤーの目線から具体的な取組やアイデアの抽出、社会実験の企画・実施などを行いました。

また、こうした取組の推進にあたり、県からは「持続可能なまちづくり集中支援事業」による運営支援や助言をいただきました。



(2) 検討体制と経緯

(1)目的と位置付け
(2)検討体制と経緯

2 対象エリアの
基本情報

3 エリアの目指す
方向性

4 実現化方策

5 今後の
推進体制

② 検討経緯

亀山周辺・中心市街地まちづくり・アクション会議※

令和5年12月に第1回を開催した後、計6回のアクション会議を経て、本プランを取りまとめました。

※ 正式名称は第3回会議で決定しましたが、本プランでは第1回から「亀山周辺・中心市街地まちづくり・アクション会議」と記載します

テーマ別WG・社会実験

第4回会議の開催後、計3回のWGを行い、大学生や中心商店街関係者、エリア内の施設関係者などを対象に広く取組のアイデアを吸い上げました。

さらに、第5回会議を経て、WGで吸い上げた取組のアイデアのいくつかを社会実験として実施し、その効果を検証しました。

本プランの検討では、①エリアの現状を理解し、②課題解決に向けたエリア一体の取組方針を確認した後、③実現したい取組の抽出・整理を行い、④各取組が実現した際の効果を検証する、というプロセスを重視しました。

「③実現したい取組の抽出・整理」では、取組の必要性や難易度の高さだけで取捨選択するのではなく、「提案されたアイデアをどのように実現させるか」という点を意識した議論を行い、一つ一つの小さな取組がエリア全体のまちづくりへと波及するような計画となることを目指しました。

■会議体等の開催・検討経緯

第1回 亀山周辺・中心市街地まちづくり・アクション会議

【日時】令和5年12月27日

【総括】

- プラン策定の背景と目的を確認
- 対象エリアの確認
- アクション会議の体制検討（キーパーソン探し）

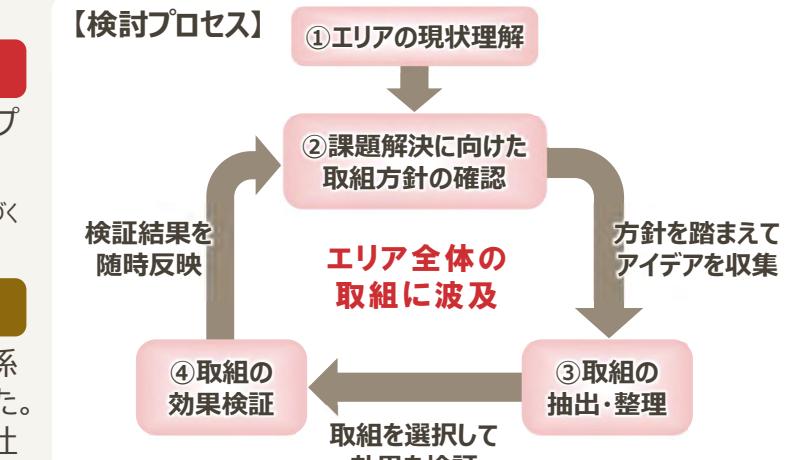


第3回 亀山周辺・中心市街地まちづくり・アクション会議

【日時】令和6年3月27日

【総括】

- 会議体の正式名称の決定
- 課題解決に向けた取組方針の決定
- 次年度以降の取組スケジュールの設定
- テーマ別WGの体制検討



第2回 亀山周辺・中心市街地まちづくり・アクション会議

【日時】令和6年1月19日

【総括】

- アクション会議の位置付けと目的の確認
- アクション会議の体制決定
- 対象エリアの魅力と課題を確認
- 課題解決に向けた取組方針の検討



第4回 亀山周辺・中心市街地まちづくり・アクション会議

【日時】令和6年5月29日

【総括】

- 課題解決に向けた取組方針の見直し
- 今年度、重点的に議論するテーマの決定
- テーマ別WGのリーダー、収集メンバー、検討内容の決定



(2) 検討体制と経緯

- (1)目的と位置付け
- (2)検討体制と経緯

2 対象エリアの基本情報

3 エリアの目指す方向性

4 実現化方策

5 今後の推進体制

● 前ページからの続き

第1回 パークロード周辺活用WG

【日時】令和6年6月30日

【テーマ】

➢パークロード周辺を歩いてみよう！

【活動内容】

➢グループ別にエリア内をまち歩き
➢パークロード周辺の活性化に向けて“高めるべき魅力”と“対応すべき課題”を整理



第2回 パークロード周辺活用WG

【日時】令和6年7月17日

【テーマ】

➢パークロードや中心商店街周辺の将来像を描こう！

【活動内容】

➢エリアの将来像を議論
➢将来像の実現に必要な取組を議論
➢上記の内容を取組のテーマ別に整理



第3回 パークロード周辺活用WG

【日時】令和6年8月8日

【テーマ】

➢パークロードや中心商店街周辺で行うまちづくりの取組を考えよう！

【活動内容】

➢第2回で整理した取組の中で、特に優先的に行うべきものを選定
➢選定した取組の効果、進め方を議論



第5回 龜山周辺・中心市街地まちづくり・アクション会議

【日時】令和6年10月10日

【総括】

➢プランの全体構成の決定
➢対象エリア内で生み出したい“シーン”とその実現に向けた具体的な“アクション”的決定
➢WGを踏まえて今年度中に効果検証を行う社会実験の決定



効果検証の社会実験（詳細はp.26以降を参照）

【令和6年度に実施した社会実験】

- ①パークロードと亀山公園の一体化
- ②パークロードの沿道活用
- ③若者が中心となったイベント企画・運営
- ④モビリティを活用した回遊性の向上
- ⑤パークロード周辺施設と商店街の連携



第6回 龜山周辺・中心市街地まちづくり・アクション会議

【日時】令和7年3月14日

【総括】

➢プランの全体構成の見直し
➢社会実験を踏まえた“シーン”と“アクション”的見直し
➢次年度以降の推進体制、取組の進め方について検討



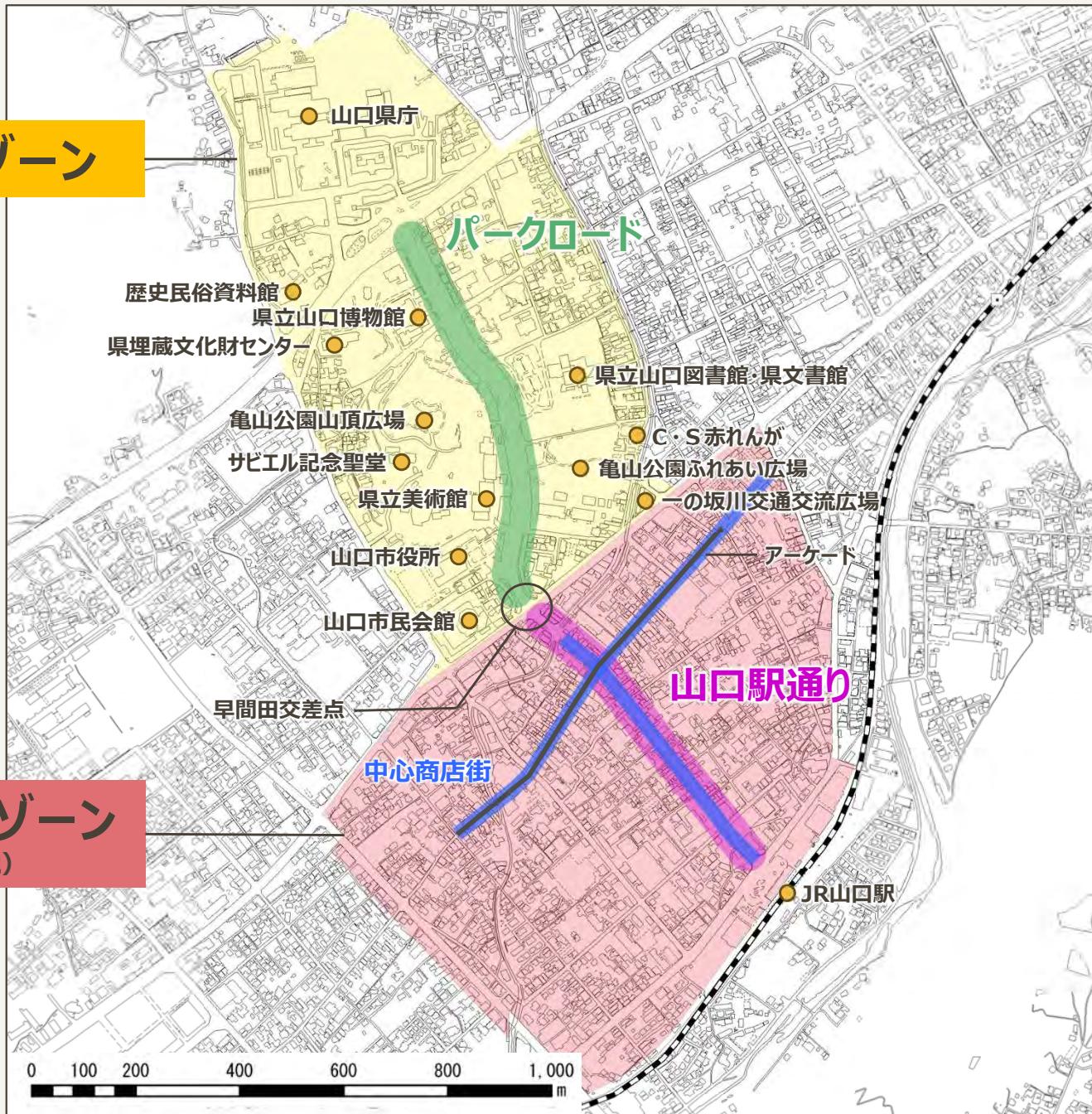
関係者ヒアリングやWGでの主な意見は、p.20の「エリア関係者の声の整理」にて紹介します。

(1) 対象エリアの範囲

- (1) 対象エリアの範囲
- (2) エリアの概要
- (3) エリアにおけるこれまでの取組
- (4) エリアの現況分析
- (5) エリア関係者の声の整理
- (6) エリアにおける魅力と課題

■ 対象エリア：亀山周辺ゾーンと中心商店街ゾーン (ゾーンは山口市都市核づくりビジョンに基づき設定)

亀山周辺ゾーン



**中心商店街ゾーン
(中心市街地)**

(2) エリアの概要

2

対象エリアの 基本情報

- (1)対象エリアの範囲
 - (2)エリアの概要
 - (3)エリアにおけるこれまでの取組
 - (4)エリアの現況分析
 - (5)エリア関係者の声の整理
 - (6)エリアにおける魅力と課題

3

エリアの目指す 方向性

4

実現化方策

5

今後の 推進体制

■亀山周辺ゾーンと中心商店街ゾーンについて

〔歴史〕

- 本市の中心市街地は、14世紀中頃に守護大名大内氏が、一の坂川を鴨川に見立て、京都に模したまちづくりを行ったことに始まります。以降は中世、明治から現在にわたり、山口県の政治の中心を担ってきました。
 - また、対象エリア内には、参勤交代の道として整備された萩往還と石州街道が交差しており、門前町、宿場町として発展してきた背景もあります。
 - 対象エリアの北側には、かつて長州藩の藩庁となる山口城が位置しており、明治維新後に藩庁が県庁に移行したことでの現在の山口県庁が設置されました。
 - 県庁の南側では、古くは藩校である山口講堂が建設され、教育の場として機能していました。その後、山口明倫館、山口大学キャンパスを経て、現在は山口市役所や県立美術館、亀山公園ふれあい広場等の公共施設が集積しています。

【特徵】

- 中心商店街ゾーンは、7つの商店街を中心に多くの商店や飲食店が並ぶとともに、金融機関や郵便局をはじめとする様々な都市機能が集積する商業地域となっています。
 - また、交通結節点となる山口駅には各種公共交通が発着しており、多くの通勤・通学者や買い物客に利用されています。
 - 亀山周辺ゾーンは、市役所や県庁、税務署などの行政機能、市民会館や県立美術館、県立山口図書館、県立山口博物館などの文化・教育機能などが集積しています。
 - 早間田交差点から県庁を結ぶ厳島早間田線は“パークロード”の愛称で親しまれています。沿道では並木や亀山公園、建物が一体となって美しいまちなみを演出しており、S62年には“日本の道100選”にも選出された山口市のシンボルロードとなっています。



(3) エリアにおけるこれまでの取組

- (1)対象エリアの範囲
- (2)エリアの概要
- (3)エリアにおける
これまでの取組
- (4)エリアの現況分析
- (5)エリア関係者の
声の整理
- (6)エリアにおける
魅力と課題

① 上位関連計画等における位置付けや取組

【山口市都市核づくりビジョン 2022(R4).3策定】

- 「やまぐちの暮らしと賑わいを支える都心形成」という将来像を掲げ、以下の4点に取り組むこととしています。
 - ① まち歩きを楽しめる回遊性の強化（ウォーカブルなまちなかの形成）
 - ② まちなかの賑わいを創出する交流・滞留機能等の集積・強化
 - ③ 既存ストックを活用した質の高い都市空間の形成
 - ④ 多様なワークスタイル・ライフスタイルに対応した都市空間の形成

- 県道厳島早間田線から県道山口秋穂線の改良・修景整備の促進
- 周遊機能の強化に向けたEVカーシェアリングやシェアサイクル等の導入
- 中心商店街における沿道活用方法のルール等の策定支援
- 市民会館街区と新本庁舎街区の一体感のある整備
- 空き店舗や空きビル等のリノベーションに対する支援
- 就業の場、遊びの場、学びの場、憩いの場等としての環境整備など

【山口市コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり計画 2019(H31).4策定】

- エリア全体が「都市機能誘導区域※」に位置付けられています。
- 亀山周辺ゾーンでは、市役所や税務署等の行政機能、県立美術館や博物館等の教育文化機能の集積を図ることとしています。
- 中心商店街ゾーンでは、小売店やデパート、専門店舗などの商業機能や娯楽・文化機能の集積を図ることとしています。

※ 各種都市機能を集積させて効率的な生活サービスの提供を図る区域

- 空き店舗への出店サポート、各種イベントや事業のコーディネート、民間遊休不動産の有効活用を目指したワークショップ等を開催
- シェアサイクル等の導入や、自動運転の技術革新に伴う新たな移動手段の導入について調査研究を推進
- 公共交通機関同士や他の移動手段との乗継環境を整えることによる公共交通の利便性の向上など

【第3期山口市中心市街地活性化基本計画 2021(R3).7策定】

- 「『まちを楽しむ。』～日常を豊かにするまちづくり」というテーマに基づき、以下の3つの目標が掲げられています。
 - ① 求心力のある商業・業務エリアの形成
 - ② 交流と創造による来街機会の創出
 - ③ 誰もが安心して過ごすことができるまちへの再生

- 中心商店街における空き店舗への新規開業希望者に対する出店時の店舗改装費等の支援
- 山口駅通りやパークロードにおける歩きたくなる歩行空間の形成と沿道の土地や公共空間等の活用
- 「ウォーカブル区域」を設定し、山口駅通りその他においてふさわしい沿道の土地利用や民間事業者による道路空間の活用の検討など

【山口市まちなかウォーカブル推進ビジョン 2025(R7).10策定】

- 「魅力あるスモールエリアの連続と快適な歩行者空間が生み出す歩きたくなる『やまぐちのまちなか』」をコンセプトとし、以下の2つの視点からエリア全体の回遊性を生み出し、中心市街地の価値を高める取組を推進することとしています。
 - ① 居心地が良く歩きやすい歩行者中心の街路空間の再編
 - ② 回遊性を生み出す魅力あるスモールエリア

- 主軸となる山口駅通りの道路空間の再編
- 一の坂川交通交流広場及び山口駅前広場の再整備
- 魅力的な細街路のネットワーク化と歩ける環境づくり
- 公共交通網の再編と、新たなモビリティの強化・充実
- 駐車場の戦略的な再配置・集約化など

(4) エリアの現況分析

対象エリアの 基本情報

- (1)対象エリアの範囲
- (2)エリアの概要
- (3)エリアにおけるこれまでの取組
- (4)エリアの現況分析
- (5)エリア関係者の声の整理
- (6)エリアにおける魅力と課題

エリアの目指す 方向性

実現化方策

今後の 推進体制

① 人口・世帯

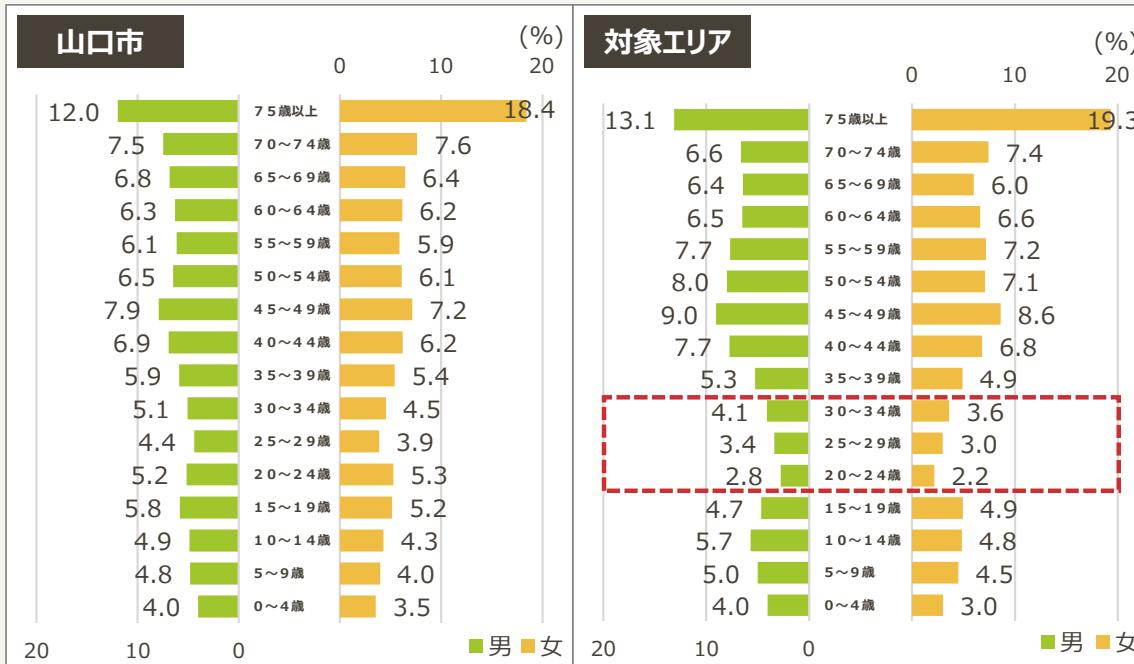
【人口・世帯の推移】

- H22～R2年の人口は、市全体では減少に転じているのに対し、対象エリアでは増加傾向にあります。
- H22～R2年の世帯数は、市全体及び対象エリアで増加傾向（対象エリアは市全体よりも増加率大）にあります。
- 小地域別人口では、亀山周辺ゾーンは減少している小地域が多い一方、近年のマンション建設等に伴い中心商店街ゾーンでは人口増加する小地域もあります。

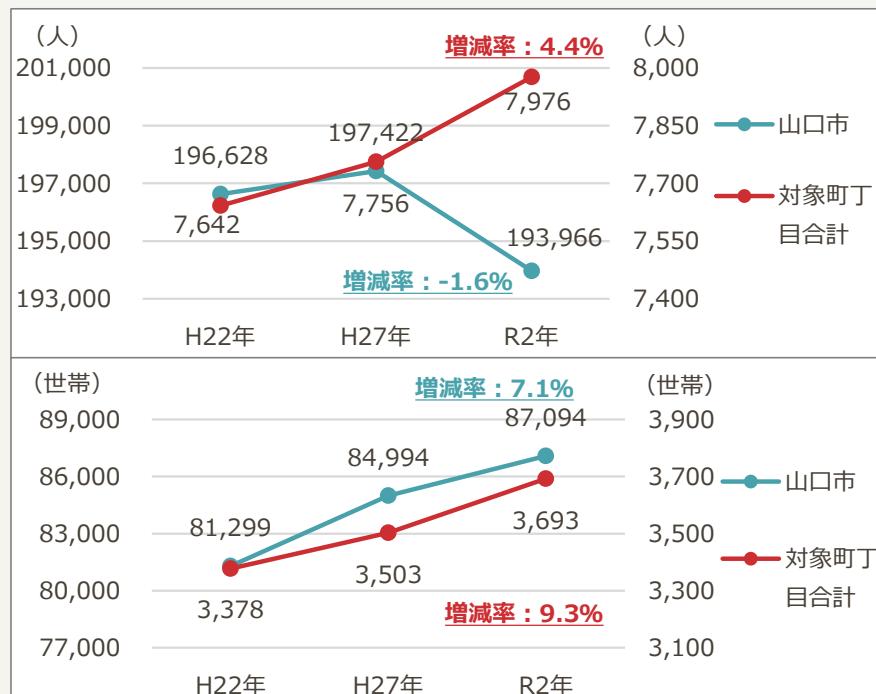
【5歳階級別人口】

- R2年の男女別5歳階級別人口割合は、市全体と比較して対象エリアの20～30歳代前半の人口が特に少なくなっています。

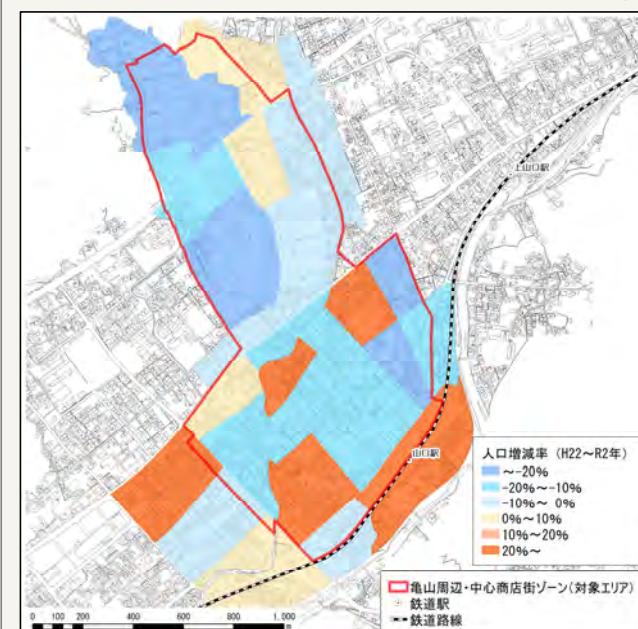
▼R2年 男女別5歳階級別人口割合（国勢調査より）



▼上段：人口推移、下段：世帯数推移（いずれも国勢調査より）



▼H22～R2年 小地域別人口増減率（国勢調査より）



(4) エリアの現況分析

対象エリアの 基本情報

- (1)対象エリアの範囲
- (2)エリアの概要
- (3)エリアにおけるこれまでの取組
- (4)エリアの現況分析**
- (5)エリア関係者の声の整理
- (6)エリアにおける魅力と課題

エリアの目指す 方向性

実現化方策

今後の 推進体制

② 土地利用・建物状況

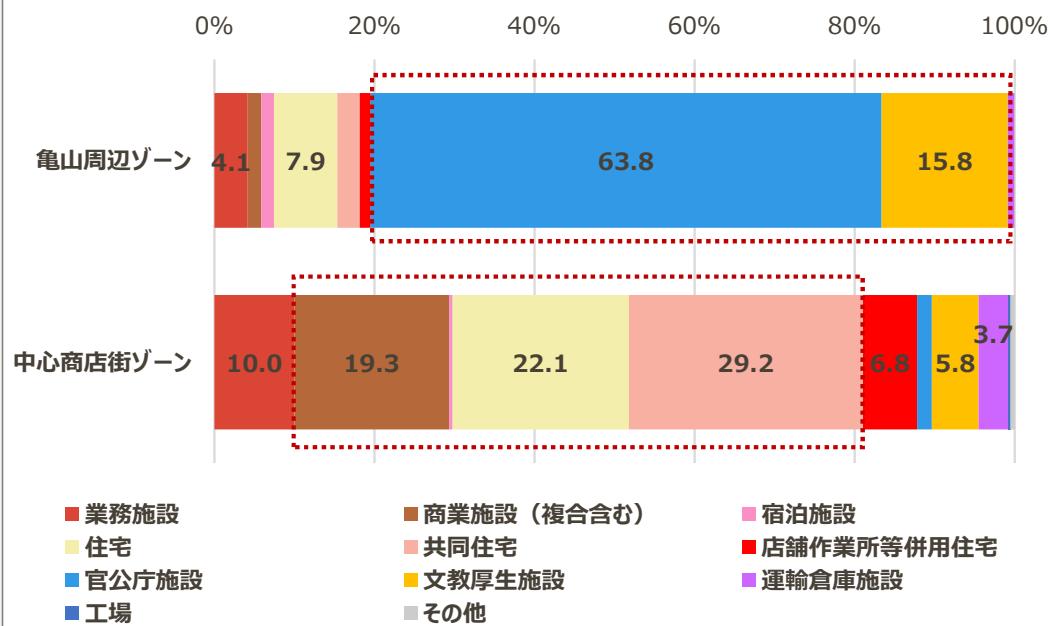
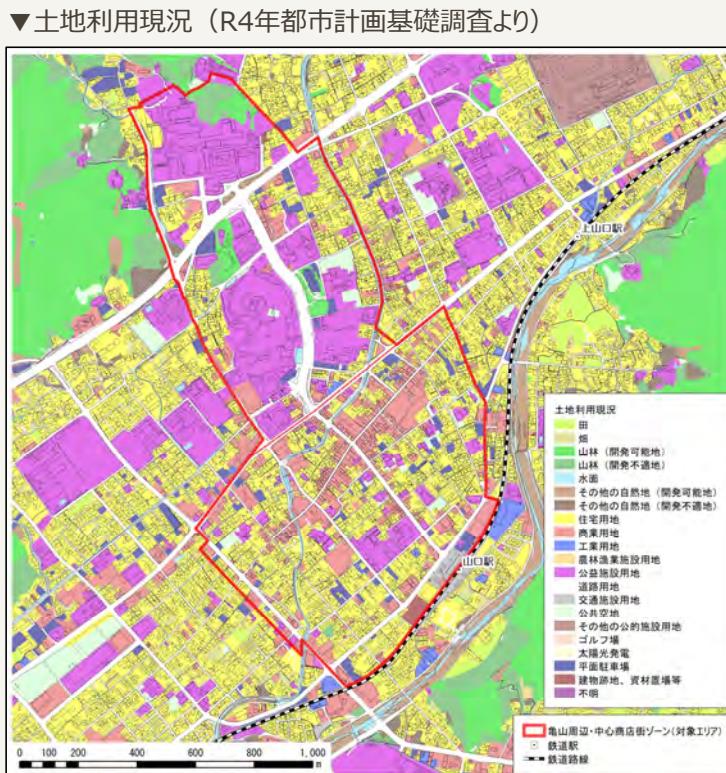
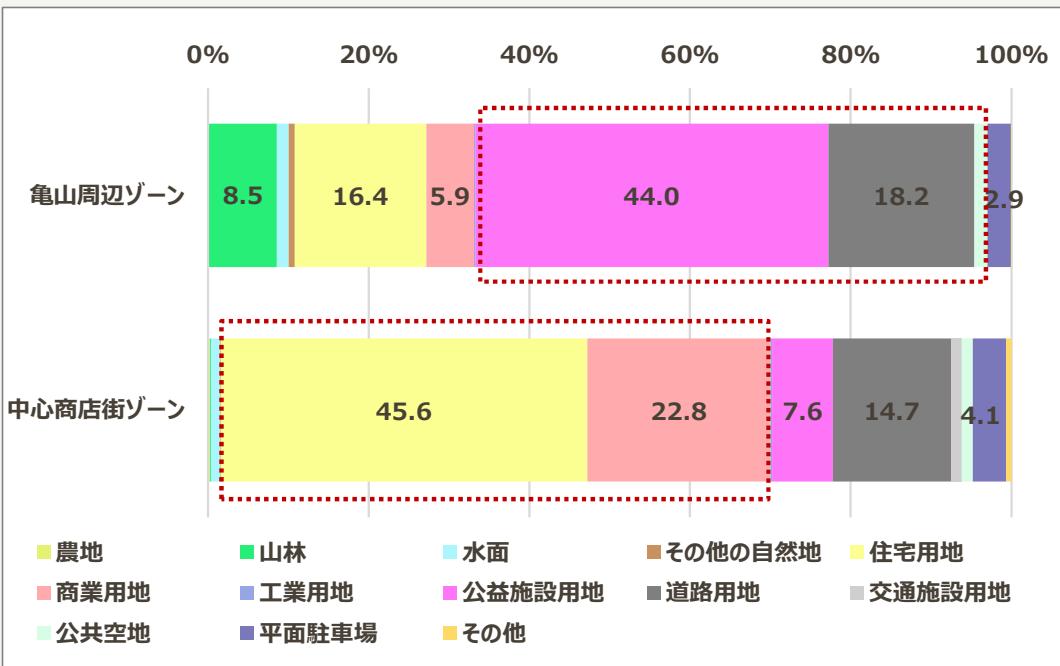
【土地利用現況】

- 土地利用面積割合は、亀山周辺ゾーンは公共用地、中心商店街ゾーンは山口駅周辺の商業機能と住宅が大部分を占めています。

【建物利用現況】

- 建物用途別延床面積割合は、亀山周辺ゾーンは主に行政・文化教育施設が多数立地し、中心商店街ゾーンは商業施設や住宅など利便性の高い立地状況となっています。

▼上段：土地利用面積割合、下段：建物利用別面積割合
(いずれもR4年都市計画基礎調査より)



(4) エリアの現況分析

対象エリアの 基本情報

- (1) 対象エリアの範囲
- (2) エリアの概要
- (3) エリアにおけるこれまでの取組
- (4) エリアの現況分析
- (5) エリア関係者の声の整理
- (6) エリアにおける魅力と課題

エリアの目指す 方向性

実現化方策

今後の 推進体制

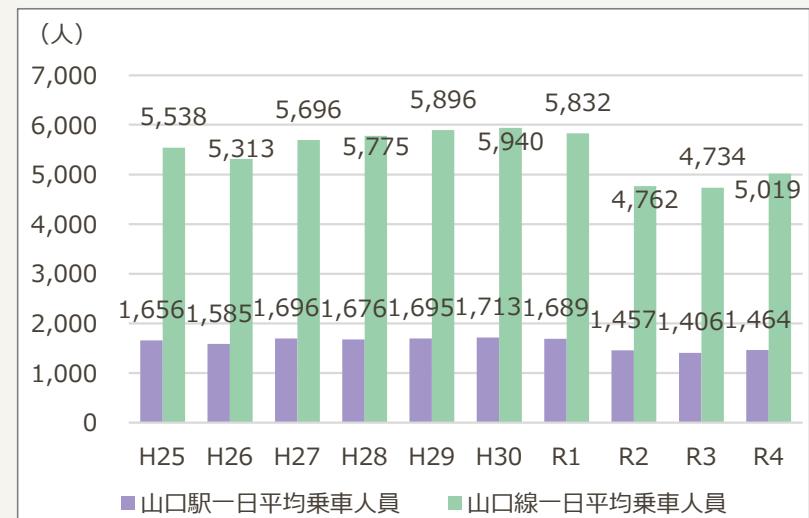
③ 公共交通

- H13～R4年のJR山口線及び山口駅乗車人員の推移は、H26年以降増加傾向であったが、R2年に新型コロナウイルス感染症の影響で激減し、コロナ禍前まで回復していません。
- バス交通は、対象区域内の幹線道路沿いの平日1日当たりの平均運行本数が100本超と利便性が高い状況となっています。
- 山口駅北側のエリアでは、コミュニティバス、シェアサイクル等、自家用車以外での移動手段が充実しています。
- シェアサイクル実証事業が実施されており、R6年度前期で1ヶ月当たり1,200件程度利用されています。

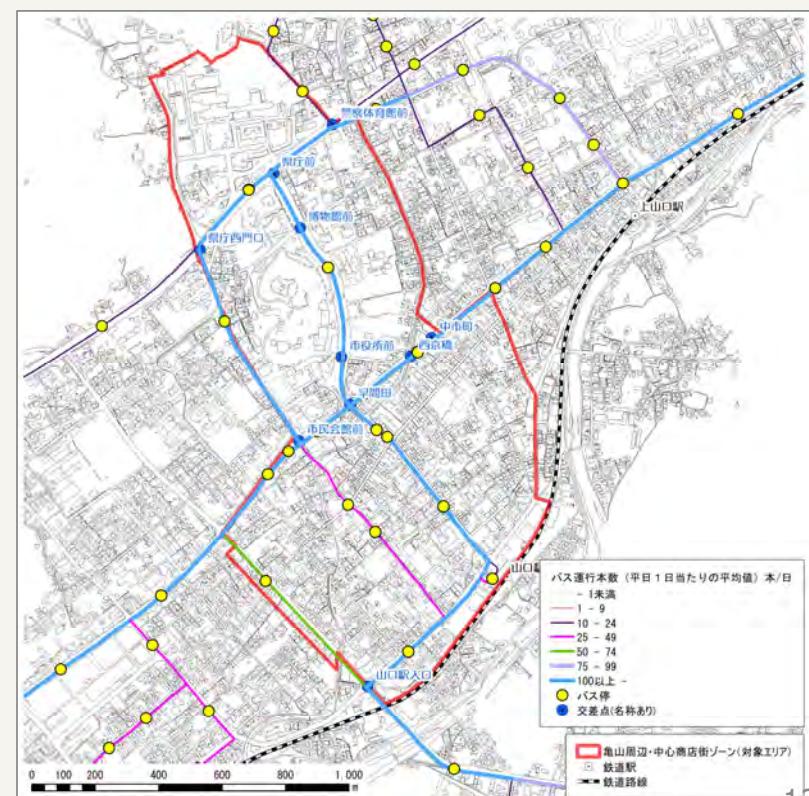


シェアサイクルポート

▼山口線・山口駅乗車人員の推移（R4年都市計画基礎調査より）



▼バス運行本数（R4年都市計画基礎調査より）



▼中心市街地周辺バス路線の状況（山口市総合時刻表より）



(4) エリアの現況分析

- (1)対象エリアの範囲
- (2)エリアの概要
- (3)エリアにおけるこれまでの取組
- (4)エリアの現況分析**
- (5)エリア関係者の声の整理
- (6)エリアにおける魅力と課題

④ 公共空間

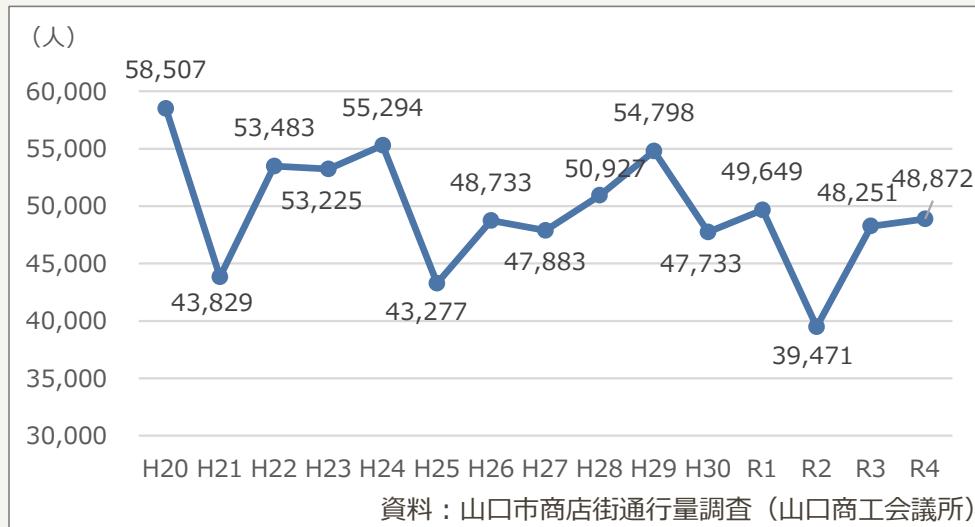
【みち】

- 平成20年をピークに**商店街歩行者通行量はやや減少傾向**にあり、R2年には新型コロナウイルス感染症の影響により一時急落しましたが、R3年以降回復傾向にあります。
- 早間田交差点、市民会館前交差点、県庁前交差点、山口県立美術館前に**歩行者専用の地下通路が整備**されています。

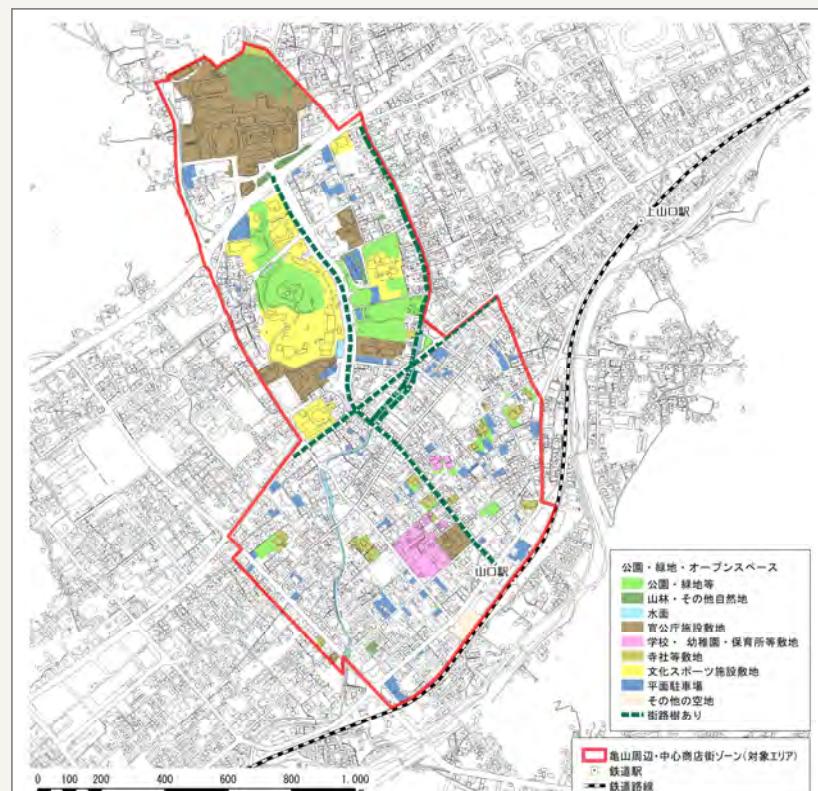
【オープンスペース】

- 公園・広場は、**亀山周辺ゾーン**には**比較的大きな公園等**が整備されており、**中心商店街ゾーン**には**小規模な公園**が点在しています。
- 公共施設、文化施設等の敷地内は**積極的に緑化**がなされています。
- 平面駐車場は、**亀山周辺ゾーン**は公共施設利用者用のまとまった駐車場、**中心商店街ゾーン**は月極や時間貸しの小規模な駐車場が点在しています。
- **山口駅前広場**はロータリー等の**車両優先の空間構成**となっており、駅利用者の**歩行・滞留空間が乏しい**です。

▼中心商店街の通行量（イベント時の休日）



▼オープンスペース等の分布



(4) エリアの現況分析

対象エリアの 基本情報

- (1) 対象エリアの範囲
- (2) エリアの概要
- (3) エリアにおけるこれまでの取組
- (4) エリアの現況分析
- (5) エリア関係者の声の整理
- (6) エリアにおける魅力と課題

エリアの目指す 方向性

実現化方策

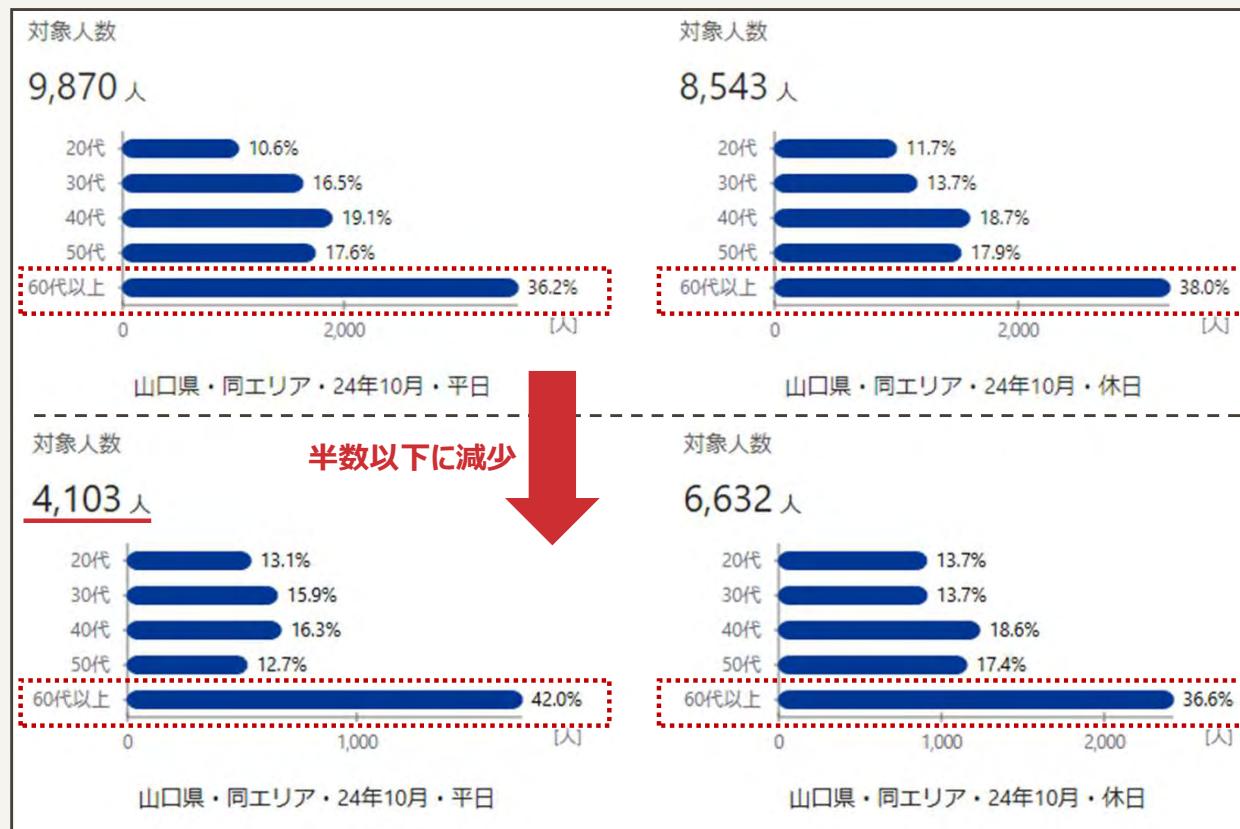
今後の 推進体制

⑤ 人の流れ※1 (GAD : GEOTRA Activity Dataより)

【年齢】

- 全員を集計対象とした場合、エリアを訪れた人数は休日よりも平日の方が多くなっています。
- 一方で、対象を来街者※2のみに絞った場合、平日にエリアを訪れた人が半数以下に減少しており、大部分の人がエリア内で居住または勤務していることが伺えます。
- 年齢別割合をみると、平日・休日ともにエリアを訪れた人の4割弱～4割強が60代以上の人となっており、対象エリアを訪れる若者の割合は低いことが伺えます。

▼エリアを訪れた人の年齢（上段：全員が集計対象、下段：来街者のみ集計対象）



「出典：株式会社GEOTRAが提供するGEOTRA Activity Data」

【注釈】

※1 2024年10月1か月間の平均的な人の動きを集計

※2 集計における「来街者」とは、分析を行う区域内を訪れた人または回遊した人のうち、当該区域内に居住または勤務している人を除いたものを指す

(4) エリアの現況分析

対象エリアの 基本情報

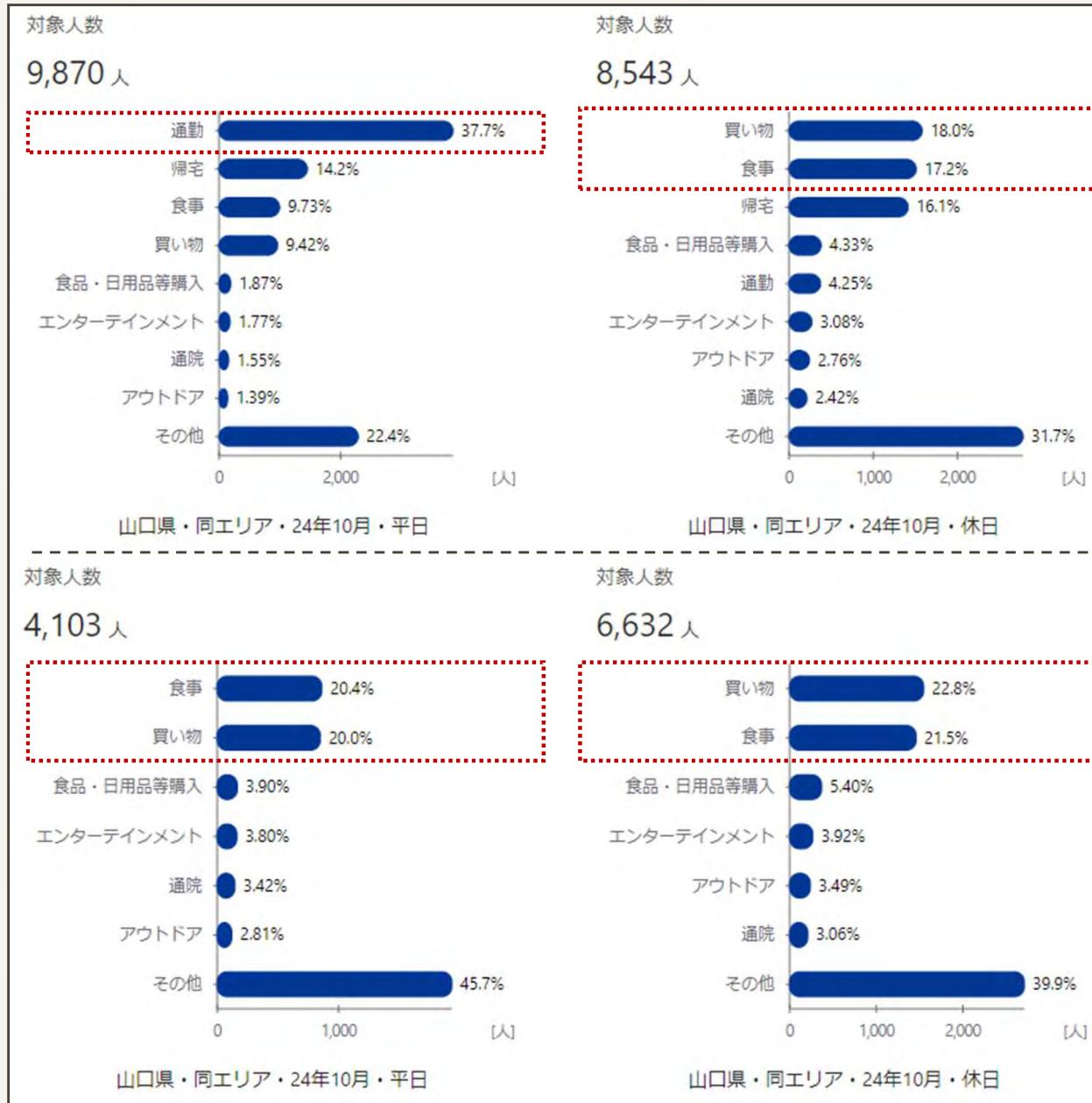
- (1) 対象エリアの範囲
- (2) エリアの概要
- (3) エリアにおけるこれまでの取組
- (4) エリアの現況分析**
- (5) エリア関係者の声の整理
- (6) エリアにおける魅力と課題

エリアの目指す 方向性

実現化方策

今後の 推進体制

▼エリアを訪れた人の移動目的（上段：全員が集計対象、下段：来街者のみ集計対象）



「出典：株式会社GEOTRAが提供するGEOTRA Activity Data」

【移動目的】

- **休日**は集計対象がどちらの場合でも、「**買い物**」や「**食事**」を目的に**エリアを訪れている人の割合が大きい**傾向にあります。
- 一方で、**平日**は全員を集計対象とした場合、「**通勤**」を目的に**エリアを訪れた人の割合が全体の4割弱**を占めており、**半数近くの人が就労のためにエリアに訪れている**ことが伺えます。

【注釈】

※ 移動目的における「その他」は、GADにおいてあらかじめ設定されている選択肢（帰宅、通勤、食事など計8項目）のいずれにも該当しないものを指す

(4) エリアの現況分析

対象エリアの 基本情報

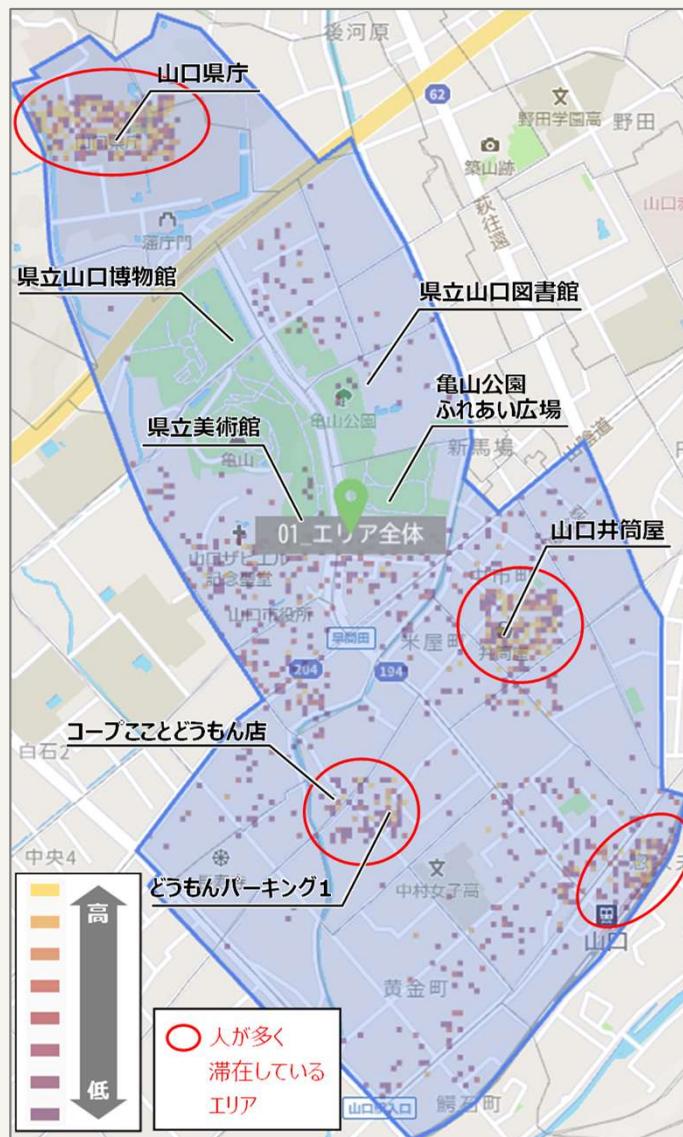
- (1) 対象エリアの範囲
- (2) エリアの概要
- (3) エリアにおけるこれまでの取組
- (4) エリアの現況分析
- (5) エリア関係者の声の整理
- (6) エリアにおける魅力と課題

エリアの目指す 方向性

実現化方策

今後の 推進体制

▼エリア内の滞在状況（左：平日、右：休日）



【滞在状況】

- **平日**は山口県庁、山口井筒屋、コープことどうもん店及びどうもんパーキング、山口駅の周辺に滞在する人が多い傾向にあります。
- 一方で、**休日**は山口県庁周辺に滞在する人が大きく減少し、山口井筒屋、コープことどうもん店及びどうもんパーキングの周辺により多くの人が滞在する傾向にあります。
- いずれの場合でも、本来、人が集まりやすい場である文教施設や亀山公園ふれあい広場等に滞在する人の数は多いとは言い難い状況にあります。

【注釈】

※ いずれもエリアを訪れた人全員を集計対象とした場合の滞在状況

「出典：株式会社GEOTRAが提供するGEOTRA Activity Data」

(4) エリアの現況分析

対象エリアの 基本情報

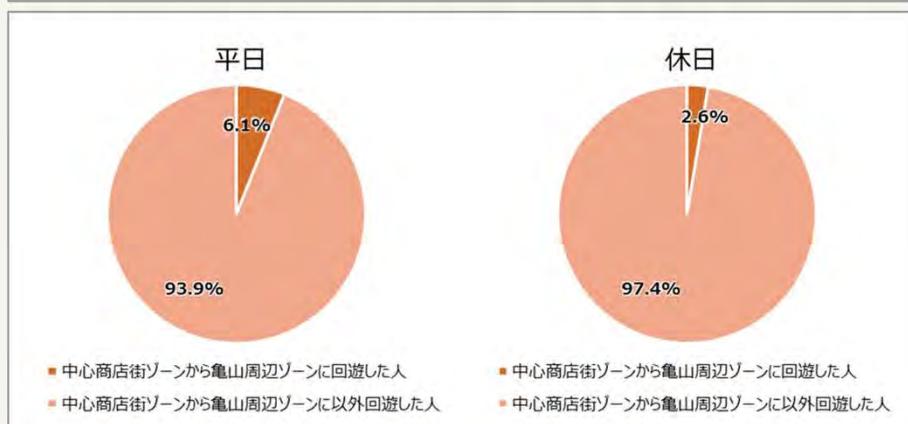
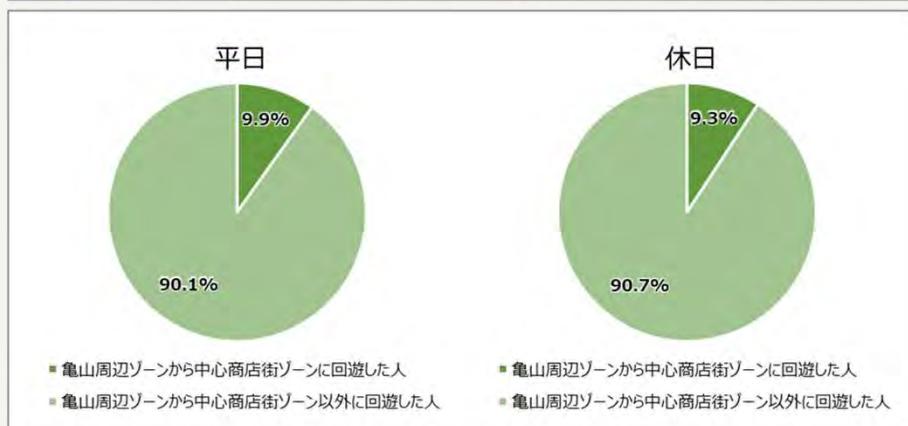
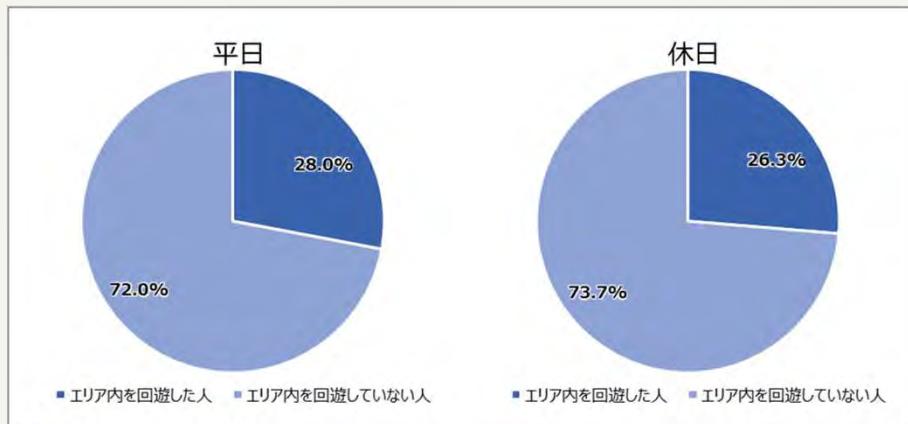
- (1) 対象エリアの範囲
- (2) エリアの概要
- (3) エリアにおけるこれまでの取組
- (4) エリアの現況分析**
- (5) エリア関係者の声の整理
- (6) エリアにおける魅力と課題

エリアの目指す 方向性

実現化方策

今後の 推進体制

▼エリア内の回遊状況（上段：エリア全体を回遊した人の割合、中段：亀山周辺ゾーンから中心商店街ゾーンへ回遊した人の割合、下段：中心商店街ゾーンから亀山周辺ゾーンへ回遊した人の割合）「出典：株式会社GEOTRAが提供するGEOTRA Activity Data」



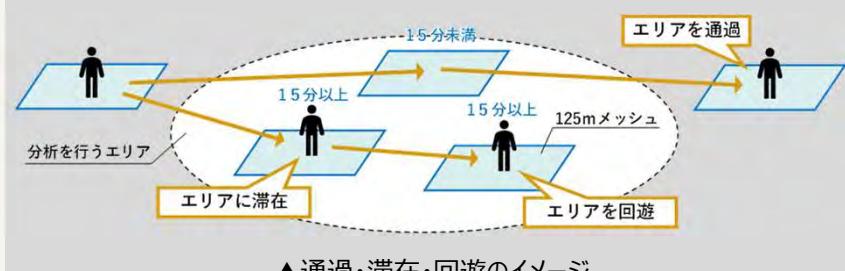
【回遊状況】

- エリア内を訪れた人のうち、エリア内を回遊した人の割合は平日・休日共に全体の3割弱となっています。
- 亀山周辺ゾーンを訪れた人のうち、中心商店街ゾーンへ回遊した人の割合は、平日・休日共に全体の1割未満に留まっています。
- 同様に、中心商店街ゾーンを訪れた人のうち、亀山周辺ゾーンへ回遊した人の割合は、平日・休日共に全体の1割未満に留まっています。
- 以上のことから、エリア内の回遊は活発とは言い難い状況にあり、亀山周辺ゾーンと中心商店街ゾーンを繋ぐ人の流れが特に希薄であることが伺えます。

【注釈】

※1 GADでは15分未満で別の125mメッシュに移動した場合は「通過」、15分以上同じ125mメッシュに存在した場合は「滞在」、滞在地の前後が特定のエリア内となった場合は「エリア内を回遊」として集計される（イメージ図参照）

※2 いずれもエリアを訪れた人全員を集計対象とした場合の回遊状況



- (1) 対象エリアの範囲
- (2) エリアの概要
- (3) エリアにおけるこれまでの取組
- (4) エリアの現況分析
- (5) エリア関係者の声の整理**
- (6) エリアにおける魅力と課題

(5) エリア関係者の声の整理

① 大学生等意識調査（過去に山口市が実施したもの）

前節のエリアの現状分析などから、対象エリアを訪れる若者の割合が低い傾向が伺えました。若者の意識や行動の傾向を把握するため、山口市が令和4年に実施した大学生等意識調査から、余暇の過ごし方や山口市内での来訪先の回答結果を以下に示します。

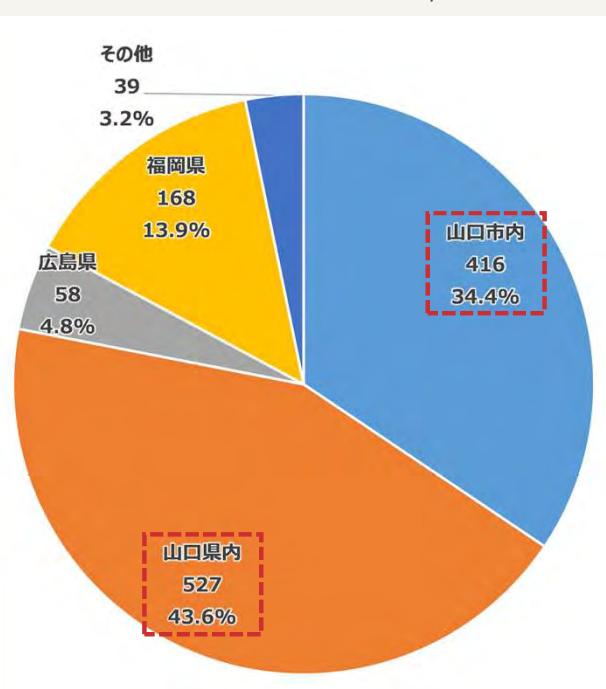
大学生等意識調査概要

実施主体	山口市		
実施時期	令和4年10月5日～10月21日		
対象	山口大学、山口大学大学院、山口県立大学、山口県立大学大学院、山口学芸大学、山口学芸大学大学院、山口芸術短期大学に通う学生 約11,000人		
実施方法	Web調査	回答数	1,208件

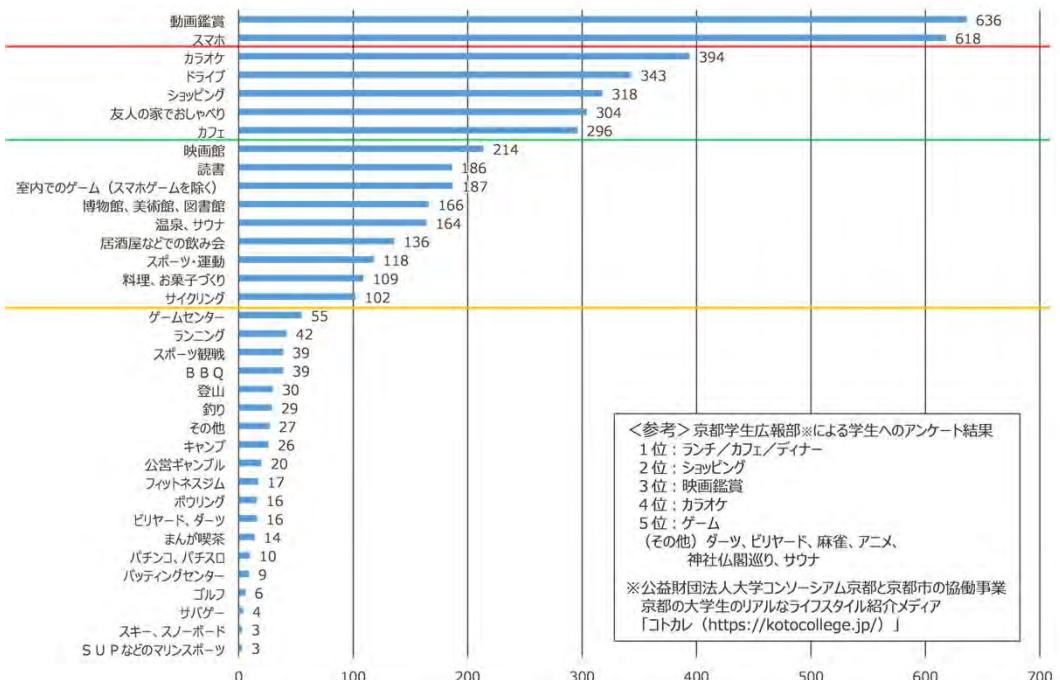
【余暇の過ごし方】

- 休日によく遊びに行く場所は、山口市内よりも県内市外へ出かける学生が多い傾向にある
- 余暇の過ごし方は、自宅で過ごす学生（動画鑑賞・スマホ）が非常に多い一方、自宅から出てまちなかで過ごす学生が少ない傾向

▼休日によく遊びに行く場所 (n=1,208)



▼山口県内の余暇の過ごし方 (n=4,696)



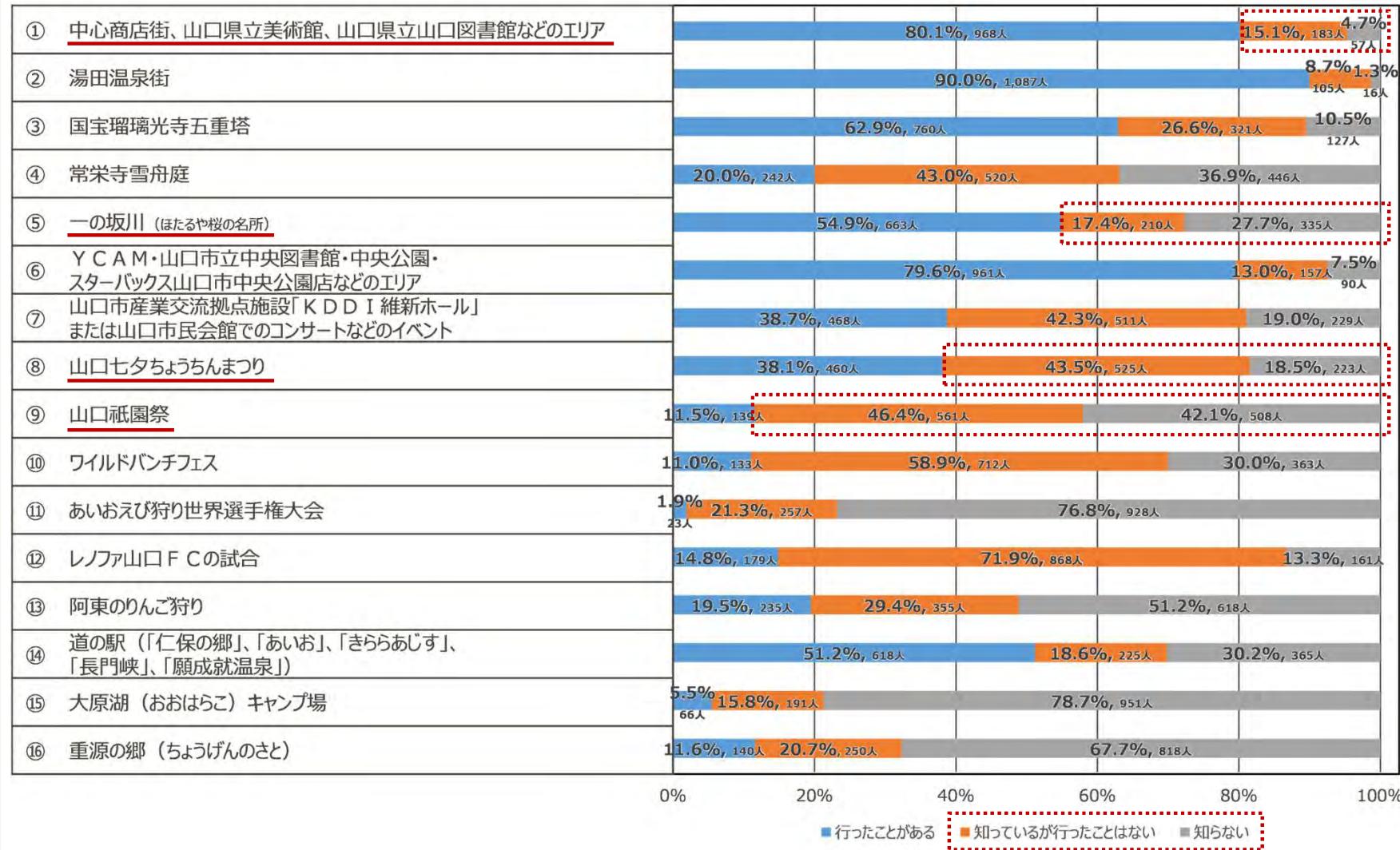
(5) エリア関係者の声の整理

- (1) 対象エリアの範囲
- (2) エリアの概要
- (3) エリアにおける
これまでの取組
- (4) エリアの現況分析
- (5) エリア関係者の
声の抽出**
- (6) エリアにおける
魅力と課題

【山口市内で行ったことのある場所・施設】

- 中心商店街ゾーン・亀山周辺ゾーンを「知らない」、「知っているが行ったことない」大学生が約5人に1人
- 一の坂川や祭事・イベント（山口七夕ちょうちんまつり、山口祇園祭）の認知度・来訪割合は更に低い傾向

▼山口市内で行ったことのある場所・施設 (n=1,208)



- (1)対象エリアの範囲
- (2)エリアの概要
- (3)エリアにおけるこれまでの取組
- (4)エリアの現況分析
- (5)エリア関係者の声の抽出
- (6)エリアにおける魅力と課題

令和6年2月に実施したアクション会議の関係者ヒアリング、同年6月～8月に実施したテーマ別WGで寄せられたご意見の一部になります

(5) エリア関係者の声の整理

② 関係者ヒアリング・ワーキンググループでのご意見

現状と課題

パークロードに面する施設は低木や街路樹などで見通しが悪く、地下道も薄暗くて歩きづらい…

まちなか全体としての「おもてなしの心」が足りてないのでは

昔に比べて、今は学生や若者の姿がまちなかに少ない印象

「車中心」の通りになっている…

公園を利用する際に駐車場が分かれづらい

潜在力

「山口らしさ」って何だろう？常に念頭に置いておくことが大切

パークロードの広い歩行空間や3館のオープンスペースを活用したい！

美術館・博物館・図書館と商店街の連携をより一層図るべき

一の坂川・交通交流広場等の既存ストックをうまく活用できるといよいよ

豊かな緑を使いこなしたい！

公共交通は結構使いやすい（ただしあまり知られていない）

想い・アイデア

まちなかに来たくなる目的や理由を増やすことが必要

イベント時に一時的に集まるような場所ではなく、まずは市民が日常的に訪れたくなるような場所にしたい

「健康」というキーワードが重要！

3館、公園、ご飯、買い物など、子どもからお年寄りまで1日中楽しく過ごせるまちになってほしい

パークロードが公園のように何度も訪れたくなる空間へ

亀山周辺ゾーンと中心商店街ゾーンを分断している「早間田交差点」を平面交差にしてもよいのでは

若者・学生の居場所が出来るとよい（サテライトキャンパスなど）

山口駅～駅通り～パークロード～県庁までが山口市のシンボルロードになるとよい

公園・広場に遊具やストリートファニチャー、美術作品等を設置しては



(6) エリアにおける魅力と課題

対象エリアの 基本情報

- (1) 対象エリアの範囲
- (2) エリアの概要
- (3) エリアにおけるこれまでの取組
- (4) エリアの現況分析
- (5) エリア関係者の声の抽出
- (6) エリアにおける魅力と課題

エリアの目指す 方向性

実現化方策

今後の 推進体制

前節までの内容を踏まえて今後、エリアで高めるべき魅力を整理しています

① エリアの魅力一覧

●都市機能 ●みち・景観 ●オープンスペース ●公共交通 ●その他

- パークロード沿いでは、彩り豊かな街路樹が立ち並ぶ、潤いと風格ある景観が形成されています。



- 市役所・県庁等の行政施設や美術館・博物館・図書館等の文教施設が集積しており、山口市の行政機能、文化・教育機能の拠点となっています。
- エリア全体で見ると、コミュニティバス、シェアサイクル等、自家用車以外の移動手段が充実しています。

- まちなか居住の促進によりエリア全体の人口は増加傾向にあります。

- 亀山公園では、山頂広場等が整備されており、市民の憩いの空間として活用されています。



- 一の坂川沿いでは、水辺の豊かな自然と伝統・歴史的遺産に恵まれた風情ある景観が形成されています。



- 山口駅通り沿いでは、中低層の建物と並木が一直線に建ち並ぶ心地よいまちなみが形成されています。



- 飲食店やコーヒーショップ、服飾店などの個性ある店舗が商店街や路地沿いに点在しています。



- 中心商店街では賑わい創出や空き店舗改善等に向けた取組が実施されています。
- 山口井筒屋やコープ周辺は平日休日を問わず人が集まる場となっています。



- 商店街内に整備されたどうもん広場は休憩やイベント等に活用されています。

（6）エリアにおける魅力と課題

対象エリアの 基本情報

- (1) 対象エリアの範囲
 - (2) エリアの概要
 - (3) エリアにおけるこれまでの取組
 - (4) エリアの現況分析
 - (5) エリア関係者の声の抽出
 - (6) エリアにおける魅力と課題

エリアの目指す 方向性

実現化方策

今後の 推進体制

前節までの内容を踏まえて今後、エリアで**対応すべき課題**を整理しています

② エリアの課題一覧

- ## ●都市機能 ●みち・景観 ●オープンスペース ●公共交通 ●その他

- 中心商店街ゾーンと比較して**商業・娯楽機能が不足**しています。
 - **文教施設の老朽化が進行**しており、施設の更新・改修が望まれています。



- 人が集まりやすい場であるはずの**亀山公園・山頂広場・ふれあい広場等を利用**または滞在する人は多いとは言い難いです



- 商店街歩行者通行量はやや減少傾向にあります。
 - エリアを訪れる人の大部分が60代以上であり、エリアを訪れる若者の割合は低いです。
 - エリア内の回遊やゾーンを横断する回遊は活発とは言い難いです。
 - 亀山公園などの施設利用者が使いやすい駐車場の整備が望まれています。



- アーケード内や山口駅通り沿いでは、気軽に滞留・休憩できるオープンスペースが不足しています。

- 主要な観光スポットである一の坂川沿いとパークロードをつなぐ回遊動線の整備が不十分です。

- 大学生等の若者の溜まり場・拠点となる店舗や施設が望まれています。



- **パークロードと公園**が、植樹等で**物理的・視覚的に分断**されており、一体的な道路空間となっていません。
 - **車を中心とした道路構成**となっており、歩行者の利便性等が十分に確保されていません。



- 県道204号（地下道）を境に、ゾーン間の歩行者動線が分断されています。



- 
 - 山口駅通りやパークロード沿いには街灯が少なく、夜間の照度の確保が望まれます。

- 駅前広場は駅利用者の**歩行・滞留空間が乏しい**です。
 - 駅通りまで距離が長く、交差点の規模も大きいため、**歩行者が横断しにくい環境**となっています。



(1) アクションプランの基本方針

■エリアの価値向上・課題解決に向けた基本方針の設定

「2 対象エリアの基本情報」で示したエリアの現況や魅力・課題等がある中で、こうしたエリアの状況や、山口市都市核づくりビジョンなどで示されている中長期的なまちづくりの方向性を踏まえ、アクションプランの基本方針として次の3つを掲げます。 ←次ページから転記

エリアのまちづくりを考える上で特に重要な魅力と課題

【都市機能】

- 中心商店街ゾーンでは、個性ある店舗が点在し、賑わい創出や空き店舗改善に向けた様々な取組が実施されています。
- 亀山周辺ゾーンは、山口市の行政機能、文化・教育機能の拠点である一方、商業・娯楽機能が不足しています。
- 大学生等の若者の溜まり場・拠点となる店舗や施設が望まれています。

【みち・景観】

- パークロード沿いでは、彩り豊かな街路樹が立ち並ぶ潤いと風格ある景観が形成されている一方で、沿道の亀山公園等が物理的・視覚的に分断されており、一体的な道路空間となっていません。
- パークロードは車中心の道路構成となっており、歩行者の利便性等が十分に確保されていません。
- 県道204号を境にゾーン間の歩行者動線が分断されています。
- 山口駅通りやパークロード沿いには街灯が少なく、夜間の照度の確保が望されます。

【オープンスペース】

- 人が集まりやすい場であるはずの亀山公園・山頂広場・ふれあい広場等を利用または滞在する人は多いとは言い難いです。
- アーケード内や山口駅通り沿いでは気軽に滞留・休憩できるオープンスペースが不足しています。
- 山口駅前広場では、駅利用者の歩行・滞留空間が乏しいです。

【公共交通】

- エリア全体でみると、コミュニティバス、シェサイクル等、自家用車以外の移動手段が充実しています。

【その他】

- 商店街歩行者通行量はやや減少傾向にあります。
- エリアを訪れる人の大部分が60代以上であり、エリアを訪れる若者の割合は低いです。
- エリア内の回遊やゾーンを横断する回遊は活発とは言い難いです。

価値向上・課題解決に向けた基本方針

- まちなかに人が来る理由や目的を新たに作ることが重要
- 上記を踏まえて、ポテンシャルがある既存の都市機能や施設を上手に使いこなす仕組みづくりが必要

1

既存の
都市機能
強化・
機能向上

- 若者を継続的にまちなかに呼び込むことが重要
- プレイヤーとなる人材を確保・育成することが重要
- 上記を踏まえて、若者や来街者の居場所づくり、プレイヤーを育成する場づくりが必要

2

若者・
来街者を
まちなかに
呼び込む

- 来街者が楽しく快適に移動できる環境を整えることが重要
- 上記を踏まえて、亀山周辺ゾーンと中心商店街ゾーンの分断の解消、エリアを回遊したくなる仕組みづくりが必要

3

エリア内の
回遊性向上

(1) アクションプランの基本方針

1 既存の都市機能 強化・機能向上

- 対象エリアのうち、亀山周辺ゾーンには、パークロード沿いを中心に、行政機能をはじめ、明治時代以降古くからこのエリアに立地している美術館、博物館、図書館などの県の文化教育施設、市民会館や亀山公園などが立地しています。
- また、中心商店街ゾーンには、JR山口駅を起点として、中央を東西に延びる中心商店街アーケード周辺に7つの商店街が立地し、百貨店や小売店などの商業施設やオフィス等が集積しています。
- 今後も、両ゾーンの特色ある都市機能の更なる価値向上や機能強化を目指します。



2 若者・来街者を まちなかに呼び込む

- 市内には、山口大学・山口県立大学・山口学芸大学の3つの大学や、短期大学・専門学校等が立地しており、多くの学生が生活をしています。
- こうした「学都山口」としての特徴を活かし、これまで対象エリア内に訪れる機会が少なかった大学生等をはじめとする若者をターゲットに、新たな人の流れを呼び込むことで、「あらゆる世代が暮らし・訪れるまちなか」の実現を目指します。
- 併せて、県の文教施設の集積を生かし、こうした施設との連携によるまちなかでの人材育成などにも取り組むことで、既存施設の新たな利用の促進、対象エリアの更なる活性化を目指します。



3 エリア内の回遊性向上

- 対象エリア内には、文化、教育、商業などの特徴の異なる魅力的な機能が多く集積しています。
- こうしたそれぞれの機能が個性を高め、互いに交流・連携するとともに、山口市まちなかウォーカブル推進ビジョン、中心市街地活性化の考え方も踏まえた、歩きやすい、移動しやすい環境を整えることで、対象エリア内全体の回遊性の向上を目指します。



1

はじめに

2

対象エリアの
基本情報

3

エリアの目指す
方向性

4

実現化方策

- (1)まちづくり推進に向けた考え方
- (2)エリアで生み出したい“シーン”的設定
- (3)“シーン”を生み出す“アクション”的設定

5

今後の
推進体制

(1)まちづくり推進に向けた考え方

本プランに基づくまちづくりの推進に向けた考え方を以下の図に示しています。

本プランでは、前章で整理した3つの基本方針を分かりやすく具体化したものとして、「エリア内で生み出したい風景のイメージ＝“シーン”」と「“シーン”を生み出すための取組の視点＝“アクション”」を設定します。併せて、エリア内で生み出したい“シーン”をより想像しやすいように、エリア内の5つの場所を題材(※)に、シーンが実現した場合のイメージイラストも示します。

“アクション”に紐づく個別の具体的な取組を地域や学生、民間事業者、県や市等の行政などが実施し、その成果を本プランへと適宜反映することにより、エリアの価値向上・課題解消に資するまちづくりを推進します。

基本方針

エリアの価値向上・
課題解決に向けた
基本方針

1

既存の都市機能
強化・機能向上

- パークロードの利活用
- 既存ストック・施設の活用

2

若者・来街者を
まちなかに呼び込む

- まちなかキャンパス機能
- まちなかへの若者等の誘導

3

エリア内の
回遊性向上

- ゾーン間の連携
- 移動手段の充実

↓ 基本方針を具体化

シーン エリア内で生み出したい風景のイメージ (イメージイラストを5つの場所を題材に作成 (※))

イメージ
イラスト①

イメージ
イラスト②

イメージ
イラスト③

イメージ
イラスト④

イメージ
イラスト⑤

(※) イメージイラストを作成した箇所はあくまで例示であり、“シーン”的実現はエリア内全体を対象として考えます。

アクション シーンを生み出すための5つの取組の視点

ACT-1

ACT-2

ACT-3

ACT-4

ACT-5

地域や学生、民間事業者、
県や市等の行政などが、
個別の取組や社会実験などを実施

↑ 成果を反映

アクションに関連する個別の具体的な取組

1

はじめに

2

対象エリアの
基本情報

3

エリアの目指す
方向性

4

実現化方策

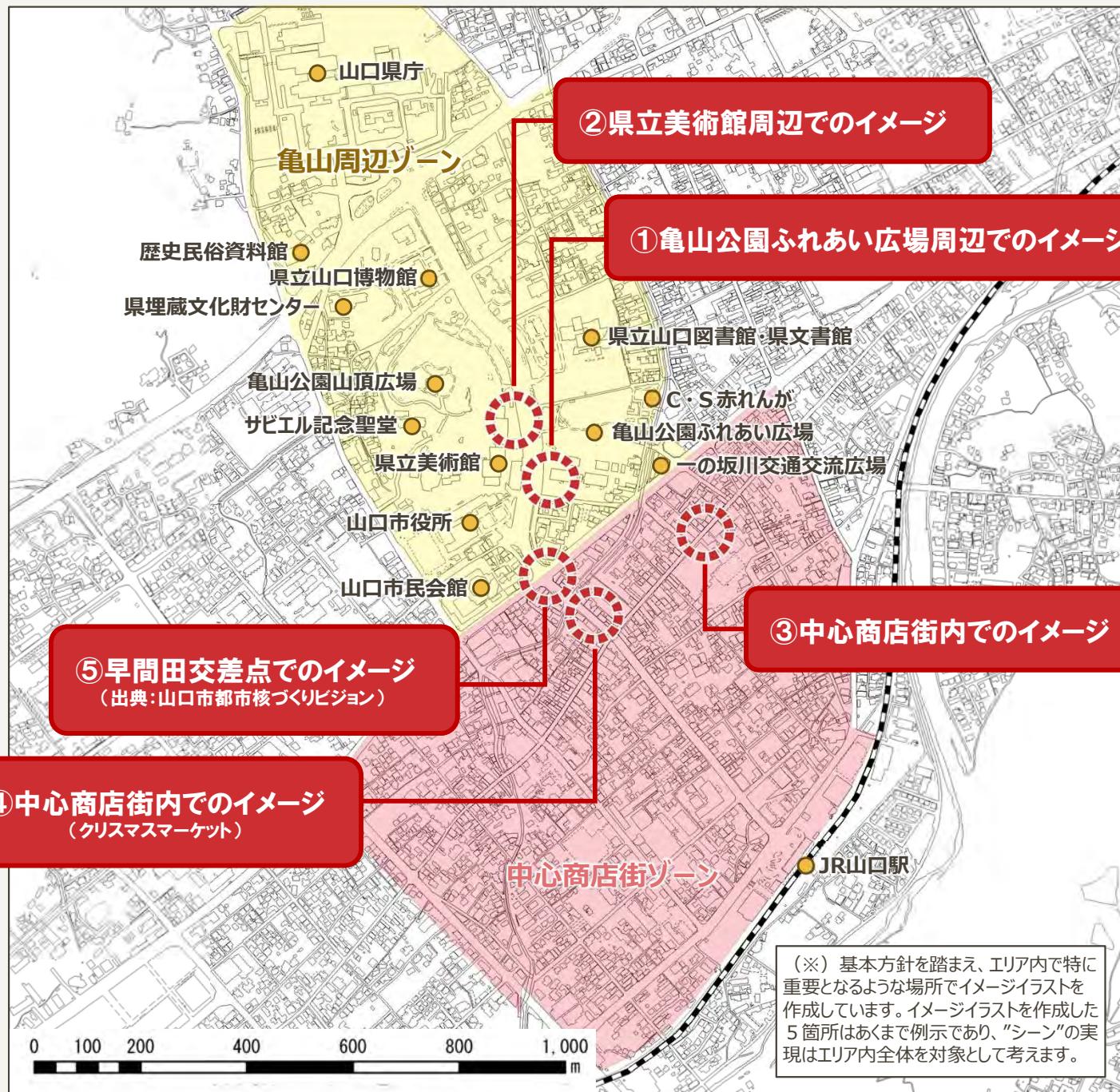
- (1)まちづくり推進に向けた考え方
- (2)エリアで生み出したい“シーン”的設定
- (3)“シーン”を生み出す“アクション”的設定

5

今後の
推進体制

(2) エリアで生み出したい“シーン”的設定

次頁から、下記地図に示す①～⑤の場所を題材(※)に作成したイメージイラストと共に、エリアで生み出したい“シーン”を示します。



各“シーン”は、アクション会議やテーマ別WGなどで得られた意見を基に設定しています

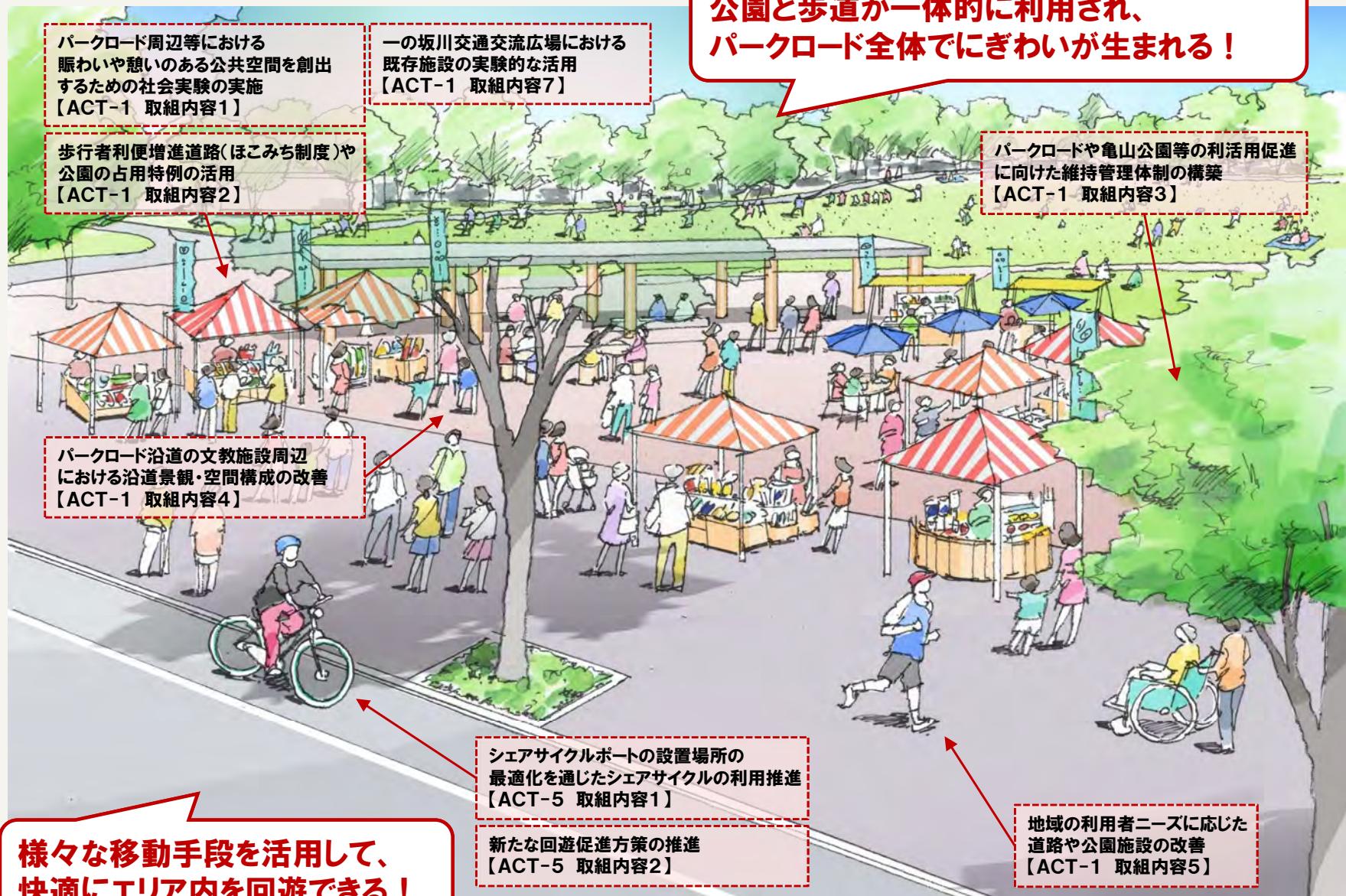
- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(2) エリアで生み出したい“シーン”的設定



シーン
アクション

①亀山公園ふれあい広場周辺でのイメージ



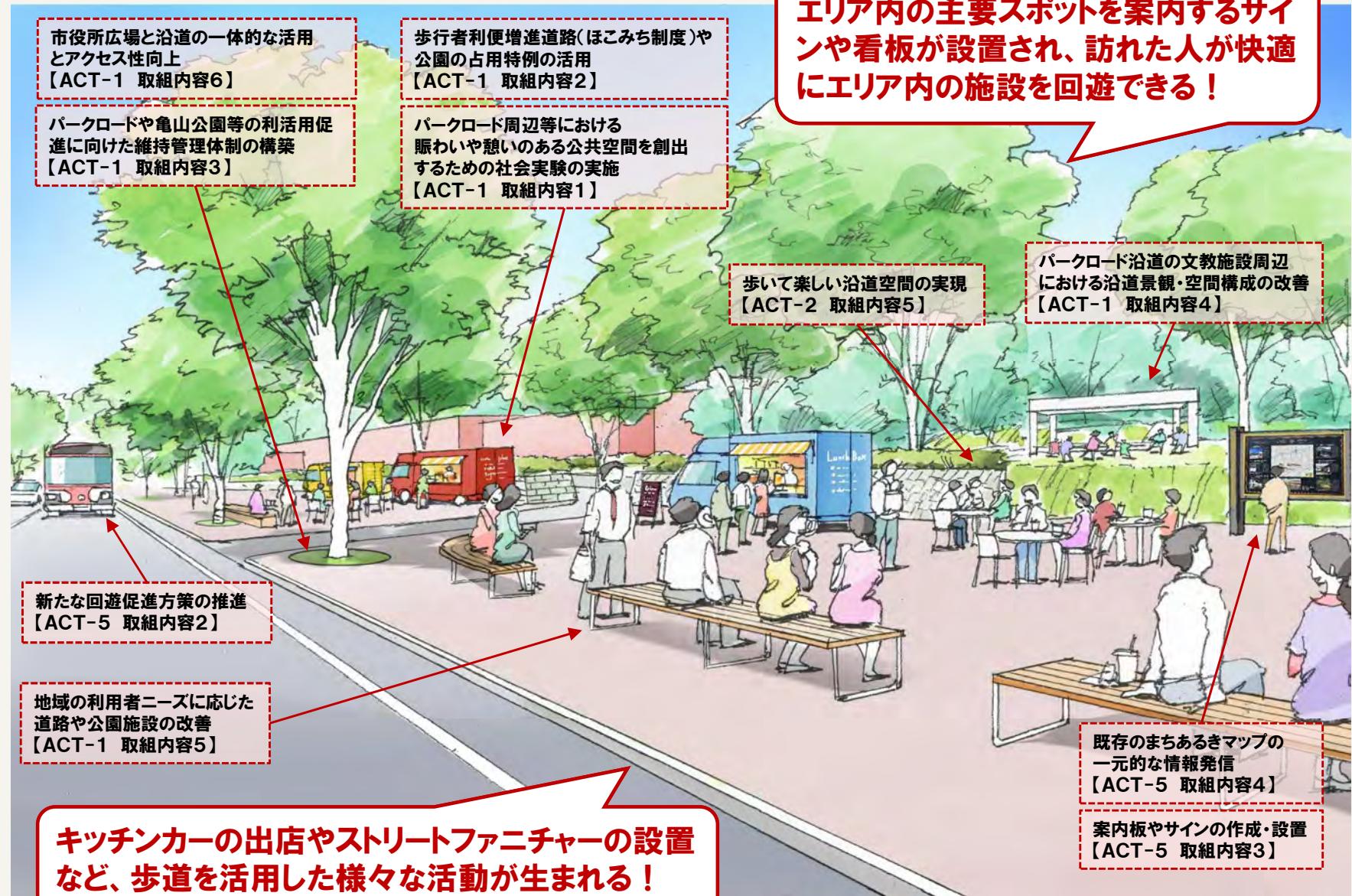
- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(2) エリアで生み出したい“シーン”的設定



シーン
アクション

②県立美術館周辺でのイメージ



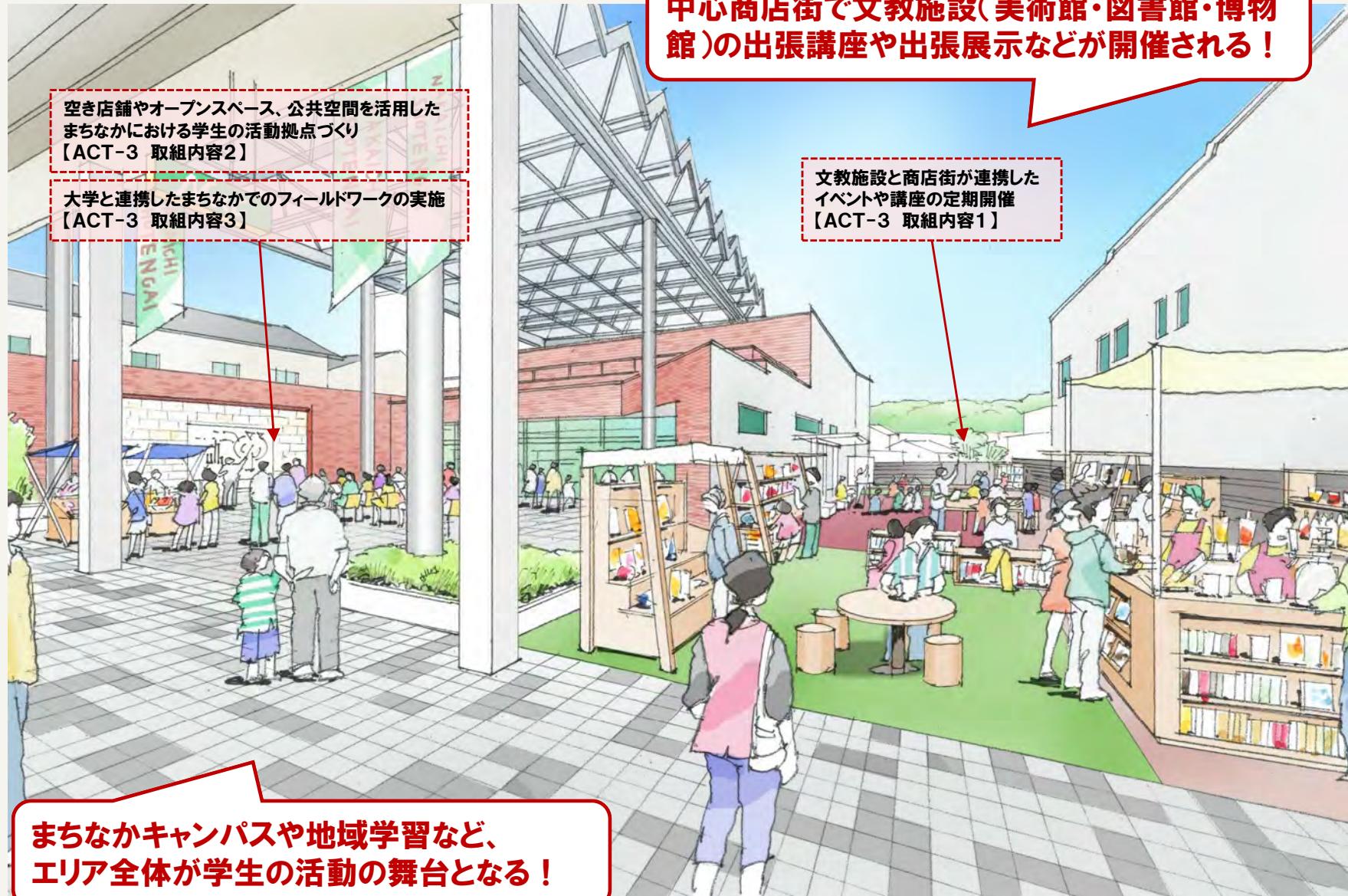
- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(2) エリアで生み出したい“シーン”的設定

シーン

アクション

③ 中心商店街内のイメージ



1

はじめに

2

対象エリアの
基本情報

3

エリアの目指す
方向性

4

実現化方策

- (1)まちづくり推進に向けた考え方
- (2)エリアで生み出したい“シーン”的設定
- (3)“シーン”を生み出す“アクション”的設定

5

今後の
推進体制

(2) エリアで生み出したい“シーン”的設定



シーン
アクション

④ 中心商店街内でのイメージ(クリスマスマーケット)



- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(2) エリアで生み出したい“シーン”的設定



シーン
アクション

⑤早間田交差点でのイメージ（出典：山口市都市核づくりビジョン）

中心商店街ゾーンと亀山周辺ゾーンの間を
より快適に移動できる！



- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”的設定

■“シーン”を生み出すための5つの取組の視点

前節の“シーン”を生み出すために、エリア内で行う5つの取組の視点を設定します。なお、各視点には個別の具体的な取組が紐づきます。

ACT-1

時間や目的を問わず使いやすい道路・公園の環境づくり

ACT-2

「車」中心から「ヒト」中心のエリアづくりに向けた空間の再編

ACT-3

商店街や文教施設等が連携したコンテンツづくり

ACT-4

来街者・若者等を呼び込む非日常を体験できるモノ・コトの創出

ACT-5

回遊を促進するモビリティ、設備等の充実

【各“アクション”を設定する際の基本的な考え方】

①テーマ別WGでエリア内で
行うまちづくりのアイデアを
吸い上げ



②吸い上げたアイデアの
いくつかを社会実験
として実施 ※



③社会実験の結果から得られたポイント
を踏まえて“アクション”とそれに紐づく
具体的な取組を設定

※一部の“アクション”では本プランの策定時点で社会実験を実施していないものがあります

- (1)まちづくり推進に向けた考え方
- (2)エリアで生み出したい“シーン”的設定
- (3)“シーン”を生み出す“アクション”的設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”的設定

■“シーン”と各取組の視点の関係

ACT-1

時間や目的を問わず使いやすい
道路・公園の環境づくり

- 公園と歩道が一体的に利用され、パークロード全体でにぎわいが生まれる！
- 様々な移動手段を活用して、快適にエリア内を回遊できる！



(1)亀山公園ふれあい広場周辺でのイメージ

ACT-2

「車」中心から「ヒト」中心の
エリアづくりに向けた空間の再編

- エリア内の主要スポットを案内するサインや看板が設置され、訪れた人が快適にエリア内の施設を回遊できる！
- キッチンカーの出店やストリートファニチャーの設置など、歩道を活用した様々な活動が生まれる！



(2)県立美術館周辺でのイメージ

ACT-3

商店街や文教施設等が連携した
コンテンツづくり

- まちなかキャンパスや地域学習など、エリア全体が学生の活動の舞台となる！
- 中心商店街で文教施設（美術館・図書館・博物館）の出張講座や出張展示などが開催される！



(3)中心商店街内でのイメージ

ACT-4

来街者・若者等を呼び込む
非日常を体験できるモノ・コトの創出

- 道路空間を活用した季節のイベントなどが開催される！
- 日々の文化活動の成果をお披露目するブースの出店や演奏などが行われる！



(4)中心商店街内でのイメージ（クリスマスマーケット）

ACT-5

回遊を促進するモビリティ、設備等
の充実

- 中心商店街ゾーンと亀山周辺ゾーンの間をより快適に移動できる！
- 道路沿いの木陰やオープンスペースなどで安心してくつろぐことができる！



(5)早間田交差点でのイメージ

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
(2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
(3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-1

時間や目的を問わず使いやすい道路・公園の環境づくり

① 関係者ヒアリングやWGで出された具体的な取組のアイデア（一例）

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| ■パークロードの歩道の木陰でくつろげる環境を整備 | ■オープンスペースを活用した子供のイベント開催 |
| ■広場に遊具を設置・貸出 | ■ラジオ体操などの活動が習慣的に行える環境を整備 |
| ■パークロードの歩道を通行用・ランニング用などで住み分け | ■キッチンカーがいつでもどこでも出店できる環境を整備 |
| ■沿道の施設が道路側からも見えるようにパークロードの植栽を剪定 | ■美術館と歩道の視覚的な分断の解消 |

② 令和6年度に実施した社会実験の概要

社会実験名	パークロード沿道活用社会実験
検証する仮説	道路空間を活用しやすい環境（設備・制度）に整えることで、民間が主体となった活動が活発になるとともに、来街者が増えるのではないか
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ■同日17時から亀山公園で実施されるイルミネーション点灯式に合わせて、キッチンカーをパークロードに出店 ■キッチンカーはいずれも同日、中心商店街で開催のクリスマスマーケットの出店者
主な検証項目	<ul style="list-style-type: none"> ■パークロードの歩道活用等を通じたにぎわいづくりに対する市民の意見 ■キッチンカー出店者目線での歩道活用の課題調査
実施日時	令和6年12月1日(日) 16時30分～19時30分
実施場所	パークロード西側歩道 市役所～美術館正面付近
実施体制	【主催】山口市 【協力】山口商工会議所 【出店】5店舗
実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> ■キッチンカーの来客数は約120人 ■点灯式に合わせて、県がパークロードと亀山公園の間の低木を一部剪定し、パークロード側から公園内の様子（イルミネーション）が見えやすくなっていた

③ 社会実験から見えてきたまちづくりのポイント

- 市民目線では、道路・公園の活用に対して肯定的な意見が多く、今後は飲食店などの店舗の充実、往来しやすい移動環境の整備、フリーマーケットや朝市等のイベントの定期開催などの取組が求められています。
- 事業者目線では、沿道での継続出店に意欲的である一方で、電源や照明の確保、キッチンカーが歩道に入りやすくするための進入路や樹木の剪定などの環境整備が求められています。



▲パークロードでのキッチンカー出店の様子

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
(2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
(3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-1

時間や目的を問わず使いやすい道路・公園の環境づくり

④ アクションに関連する具体的な取組（一覧表）

	取組内容	取組主体 イメージ*	実施に向けた検討項目
1	パークロード周辺等における 賑わいや憩いのある公共空間を創出するための社会実験の実施 (キッチンカー出店、ストリートファニチャー設置など)	県・市・ 関係者	<ul style="list-style-type: none"> ■賑わいの創出に寄与する事業者等への呼びかけ ■取組の土台となる環境(休憩場所や電源等の設備)の整備 ■取組の継続実施に向けた事業者・住民等の気運醸成
2	歩行者利便増進道路（ほこみち制度）や公園の占用特例の活用	県・市・ 沿道関係者	<ul style="list-style-type: none"> ■事業者・住民等に対する制度の認知向上(活用のメリット等) ■道路・公園等を活用した事業可能性の検証
3	パークロードや亀山公園等の利活用促進に向けた維持管理体制の構築	県・市・ 沿道関係者	<ul style="list-style-type: none"> ■街路樹の育成状況(老木化等)に関する点検体制の検討 ■落葉清掃等の維持管理負担の軽減 ■公共空間の利活用に合わせた環境美化活動(清掃等)の促進
4	パークロード沿道の文教施設周辺における沿道景観・空間構成の改善	県・市	<ul style="list-style-type: none"> ■道路側から文教施設等への視認性向上 ■施設管理者(道路・公園・文教施設等)との連携体制の構築
5	地域の利用者ニーズに応じた道路や公園施設の改善 (安全性・利便性を考慮した進入路の確保、遊具の設置や貸出など)	県・市	<ul style="list-style-type: none"> ■維持管理やイベントなど利活用促進に向けた進入路の見直し ■道路側から公園への視認性向上
6	市役所広場と沿道の一体的な活用とアクセシビリティ向上	県・市	<ul style="list-style-type: none"> ■広場と沿道空間が一体となったランドスケープデザインの検討
7	一の坂川交通交流広場における既存施設の実験的な活用	市	<ul style="list-style-type: none"> ■既存施設の短期～中期の実験的な活用プロセスの検討

* 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

1

はじめに

2

対象エリアの
基本情報

3

エリアの目指す
方向性

4

実現化方策

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

5

今後の
推進体制

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-1

時間や目的を問わず使いやすい道路・公園の環境づくり

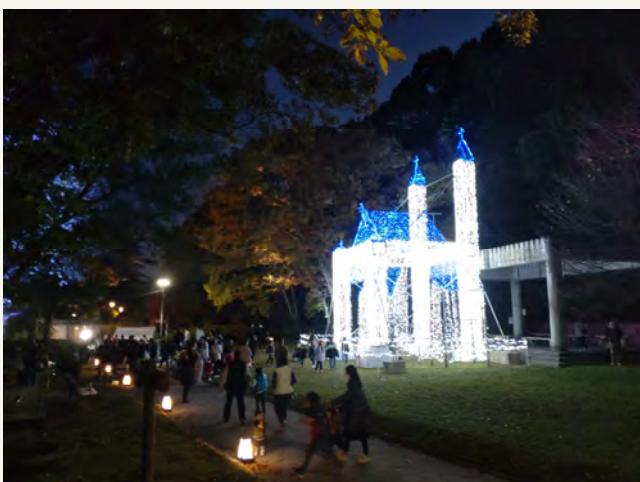
④ アクションに関する具体的な取組（個別）

取組内容 1

パークロード周辺等における賑わいや憩いのある公共空間を創出するための社会実験の実施



▲R6.12.1 パークロードでのキッチンカー出店の様子



▲R6.12.1 亀山公園でのイルミネーションイベントの様子

取組の実施に向けた検討項目

- 賑わいの創出に寄与する事業者等への呼びかけ
- 取組の土台となる環境（休憩場所や電源等の設備）の整備
- 取組の継続実施に向けた事業者・住民等の気運醸成

目指す将来像のイメージ

- ①亀山公園ふれあい広場周辺でのイメージ（P27）
- ②県立美術館周辺のイメージ（P28）

取組主体のイメージ※

【取組主体】：県・市・関係者

官×民：エリアプラットフォーム等を活用した賑わいや憩いの空間創出の検討
社会実験の内容検討及び実施（諸手続きを含む）

官：社会実験の成果等を踏まえた環境整備

民：キッチンカーの出店やストリートファニチャー設置などの参画

実現に向けた課題等

- エリア内での取組の連携と社会実験を継続して実施する体制づくり

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-1

時間や目的を問わず使いやすい道路・公園の環境づくり

④ アクションに関する具体的な取組（個別）

取組内容 2

歩行者利便増進道路（ほこみち制度）や公園の占用特例の活用



▲ほこみち制度のイメージ（国交省HPより）



▲パークロード沿道活用社会実験における歩道空間活用イメージ

取組の実施に向けた検討項目

- 事業者・住民等に対する制度の認知向上（活用のメリット等）
- 道路・公園等を活用した事業可能性の検証

目指す将来像のイメージ

- ①亀山公園ふれあい広場周辺でのイメージ（P27）
- ②県立美術館周辺のイメージ（P28）

取組主体のイメージ※

【取組主体】：県・市・沿道関係者

官×民：社会実験等を通じ継続的な制度運用の取組推進

官：地域への制度活用に向けた周知、占用等の手続きに関するこ

〔道路管理者：区画を定めて歩行者利便増進道路として指定（道路法第48条の20）〕

民：制度の利活用に向けた検討及び実施

実現に向けた課題等

- 今後の社会実験等による効果検証を踏まえ、将来的な制度活用区域指定について関係機関で協議が必要
- 地域住民や公園利用者等への周知
- 電源、照明の確保、樹木の剪定などの環境整備

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

1

はじめに

2

対象エリアの
基本情報

3

エリアの目指す
方向性

4

実現化方策

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

5

今後の
推進体制

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-1

時間や目的を問わず使いやすい道路・公園の環境づくり

④ アクションに関する具体的な取組（個別）

取組内容 3

パークロードや亀山公園等の利活用促進に向けた維持管理体制の構築



▲パークロードにおける街路樹の老木化状況（社会実験前）



▲R6.12.1 パークロードでの清掃活動の様子

取組の実施に向けた検討項目

- 街路樹の育成状況（老木化等）に関する点検体制の検討
- 落葉清掃等の維持管理負担の軽減
- 公共空間の利活用に合わせた環境美化活動（清掃等）の促進

目指す将来像のイメージ

- ①亀山公園ふれあい広場周辺でのイメージ（P27）
- ②県立美術館周辺のイメージ（P28）

取組主体のイメージ※

【取組主体】：県・市・沿道関係者

- 官 × 民**：地域における清掃活動など、環境美化活動の機運醸成
- 官**：点検や維持管理の実施など
- 民**：公共施設の利活用などを通じた清掃活動の取組

実現に向けた課題等

- 街路樹の点検方法や維持管理方法等について指針等の整備
- 点検や維持管理等の実施に必要な予算確保
- 地域活動やイベント等と連携した取組に対する行政支援の検討

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-1

時間や目的を問わず使いやすい道路・公園の環境づくり

④ アクションに関する具体的な取組（個別）

取組内容 4

パークロード沿道の文教施設周辺における沿道景観・空間構成の改善



▲R6.9 亀山公園付近での施設管理者打ち合わせ



▲R6.11 パークロード沿道活用社会実験に向けた剪定の
実施後の状況

取組の実施に向けた検討項目

- 道路側から文教施設等への視認性向上
- 施設管理者（道路・公園・文教施設等）との連携体制の構築

目指す将来像のイメージ

- ①亀山公園ふれあい広場周辺でのイメージ（P27）
- ②県立美術館周辺のイメージ（P28）

取組主体のイメージ ※

【取組主体】：県・市

官：施設管理者間での連絡体制の構築、地域との調整、植樹等の適正な維持管理の推進 など

実現に向けた課題等

- 利用者からの定期的なニーズ把握
- エリア全体における景観の整備方針や維持管理水準等を共有する体制づくり

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-1

時間や目的を問わず使いやすい道路・公園の環境づくり

④ アクションに関する具体的な取組(個別)

取組内容 5

地域の利用者ニーズに応じた道路や公園施設の改善



▲パークロード（図書館側）の進入経路の状況（右上：近景）



▲R6.12.1 社会実験時の車両進入状況

取組の実施に向けた検討項目

- 維持管理やイベントなど利活用促進に向けた進入路の見直し
- 道路側から公園への視認性向上

目指す将来像のイメージ

- ①亀山公園ふれあい広場周辺でのイメージ（P27）
- ②県立美術館周辺のイメージ（P28）

取組主体のイメージ※

【取組主体】：県・市

官：安全性・利便性を考慮した歩道や進入路の検討と整備、
公園での遊具の設置や貸出 など

実現に向けた課題等

- 地域住民や公園利用者等の適切なニーズ把握
- 関係機関での情報共有

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-1

時間や目的を問わず使いやすい道路・公園の環境づくり

④ アクションに関する具体的な取組(個別)

取組内容 6

市役所広場と沿道の一体的な活用とアクセス性向上

取組内容 7

一の坂川交通交流広場における既存施設の実験的な活用



▲山口市新本庁舎広場のイメージ（山口市HPより）



▲一の坂川交通交流広場周辺の現状の様子

取組の実施に向けた検討項目

【取組内容 6】

- 広場と沿道空間が一体となったランドスケープデザインの検討

【取組内容 7】

- 既存施設の短期～中期の実験的な活用プロセスの検討

目指す将来像のイメージ

【取組内容 6】

- 山口市新本庁舎広場整備イメージ（左図）

取組主体のイメージ ※

【取組主体】：県・市

官：市役所広場の計画と既存施設（パークロード等）との調整、社会実験による検証等を踏まえた既存施設等の事業の可能性検討など

実現に向けた課題等

【取組内容 6】

- 市役所広場整備スケジュールに合わせた周辺施設整備の役割分担

【取組内容 7】

- スマートエリア（一の坂川交通交流広場）の整備プロセスとの連携

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-2

「車」中心から「ヒト」中心のエリアづくりに向けた空間の再編

① 関係者ヒアリングやWGで出された具体的な取組のアイデア（一例）

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ キッチンカーが入れるようにパークロードの歩道を拡幅 ■ 車がスピードを出さないように車道をスラローム化 ■ 中心商店街のアーケードをパークロードまで延長 ■ 老朽化した公共施設の集約化 ■ パークロードの車道の一部を歩道に変更 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 夜でも安心して歩けるようにパークロードに照明を整備 ■ パークロード～一の坂川の歩行導線の強化 ■ 地下道を撤去して早間田交差点をスクランブル交差点化 ■ 使いやすいように駐車場を集約化または再配置 |
|---|--|

② 山口市まちなかウォーカブル推進事業の取組

- 山口市では、市民や関係者、行政等が、ウォーカブルの推進に当たっての目指すまちの姿や取組の方向性等を共有するための指針として、「山口市まちなかウォーカブル推進ビジョン」を令和7年10月に策定。
- このビジョンでは、早間田交差点を含む山口駅通りや市役所広場などを重点エリアと位置付け、今後、具体的な取組を検討することとしています。
- 本アクションプランにおいても、ウォーカブル推進ビジョンにおける検討を踏まえ、歩行者の視点に立った中心商店街ゾーンと亀山周辺ゾーンの連続性・一体を高める整備などの検討が必要です。



▲R5.5 ウォーカブル社会実験の様子（第3回及び第4回山口市まちなかウォーカブル推進会議資料より）

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
(2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
(3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-2

「車」中心から「ヒト」中心のエリアづくりに向けた空間の再編

④ アクションに関連する具体的な取組（一覧表）

	取組内容	取組主体 イメージ※	実施に向けた検討項目
1	駅通りにおける安全安心な歩行者空間の確保	県・市	<ul style="list-style-type: none"> ■街路樹による根上がりの解消、夜間の照度の確保 ■歩行者と自転車の交錯を防ぐ自転車通行レーンの明確化
2	駅通りにおける荷捌き等停車帯需要への対応	県・市・ 沿道関係者	<ul style="list-style-type: none"> ■道路空間における荷捌きスペースの確保に向けた検討
3	駅通りの両端の交差点の改良	県・市	<ul style="list-style-type: none"> ■早間田交差点の平面交差を可能とする交差点形状及び地下道の取り扱いの検討 ■山口駅前から駅通りへのより円滑なアクセス性の確保 (交差点形状のコンパクト化、横断歩道位置の見直し、信号現示など)
4	パークロードや駅通りにおけるメインストリートとしての質の担保	県・市・ 沿道関係者	<ul style="list-style-type: none"> ■ベンチや照明柱、看板などの設置物のデザイン性の担保 ■素材感のある材料の使用などによる、道路空間の高質化 ■道路空間の継続的な質を担保するための維持管理方法の検討
5	歩いて楽しい沿道空間の実現	県・市・ 沿道関係者	<ul style="list-style-type: none"> ■沿道事業者による地先空間の活用を可能とする道路空間の活用スキームの検討 ■沿道における滞留・休憩スペースの確保 ■賑わいの創出に寄与するファサードの検討 ■イベントなどで活用しやすいインフラ設備と運用方法の検討



▲ウォーカブルなまちづくりのイメージ（国交省HPより）



▲エリア全体での回遊イメージ
(山口市まちなかウォーカブル推進ビジョンより)

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、
今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-2

「車」中心から「ヒト」中心のエリアづくりに向けた空間の再編

④ アクションに関連する具体的な取組（個別）

取組内容 1

駅通りにおける安全安心な歩行者空間の確保



▲駅通りの現状の様子（第4回山口市まちなか
ウォーカブル推進会議資料より）

取組の実施に向けた検討項目

- 街路樹による根上がりの解消、夜間の照度の確保
- 歩行者と自転車の交錯を防ぐ自転車通行レーンの明確化

目指す将来像のイメージ

- ⑤早間田交差点でのイメージ（P31）

取組主体のイメージ※ []内は、今後作成する都市再生整備計画において事業及び事業主体を設定（予定を含む）するもの

【取組主体】：県・市

官：道路空間の再編に向けた検討や整備、維持管理における取組
[事業主体（県）：県道厳島早間田線（パークロード）、県道山口秋穂線（山口駅通り）]

実現に向けた課題等

- 街路樹の配置方針等を含む持続可能な維持管理方法の検討と合意形成
- 道路空間の再編における植樹帯、歩行者・自転車通行の通行帯の設定

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

取組内容 2

駅通りにおける荷捌き等停車帯需要への対応

取組の実施に向けた検討項目

- 道路空間における荷捌きスペース
の確保に向けた検討

取組主体のイメージ

【取組主体】：県・市・沿道関係者

官×民：社会実験等を通じた沿道空間利活用の検討 **官**：道路空間の再編整備

実現に向けた課題等

- 取組内容 1と連携をしながら社会実験等による検証

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、
今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-2

「車」中心から「ヒト」中心のエリアづくりに向けた空間の再編

④ アクションに関連する具体的な取組（個別）

取組内容 3

駅通りの両端の交差点の改良



取組の実施に向けた検討項目

- 早間田交差点の平面交差を可能とする交差点形状及び地下道の取り扱いの検討
- 山口駅前から駅通りへのより円滑なアクセス性の確保
(交差点形状のコンパクト化、横断歩道位置の見直し、信号現示など)

目指す将来像のイメージ

- ⑤早間田交差点でのイメージ（P31）

取組主体のイメージ※

【取組主体】：県・市

官：交差点改良の検討及び整備

[事業主体（県）：早間田交差点（地下道含む）]

実現に向けた課題等

- 早間田交差点については、社会実験で得られたアンケート結果や通行量調査の検証結果を踏まえ、追加の社会実験実施や詳細調査の要否を確認
- 山口駅前広場については、車優先から歩行者優先への空間デザインとして合意形成を進めていくため、今後の計画を議論する体制を構築

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定してきます

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-2

「車」中心から「ヒト」中心のエリアづくりに向けた空間の再編

④ アクションに関連する具体的な取組（個別）

取組内容 4

パークロードや駅通りにおけるメインストリートとしての質の担保



▲新本庁舎周辺整備イメージ
(山口市都市核づくりビジョン (R4.3) より)



▲駅通り付近整備イメージ
(山口市都市核づくりビジョン (R4.3) より)

取組の実施に向けた検討項目

- ベンチや照明柱、看板などの設置物のデザイン性の担保
- 素材感のある材料の使用などによる、道路空間の高質化
- 道路空間の継続的な質を担保するための維持管理方法の検討

目指す将来像のイメージ

- ⑤早間田交差点でのイメージ (P31)
- 新本庁舎周辺や駅通り付近の目指す空間のイメージ (左図)

取組主体のイメージ ※

【取組主体】：県・市・沿道関係者

官 × 民：エリアプラットフォーム等を活用した地域ニーズの深掘り

官：道路空間の高質化に向けた検討整備
[道路管理者：道路施設等の整備]

民：沿道事業者による道路空間の利活用に向けた検討

実現に向けた課題等

- デザイン計画について専門家や地元関係者等の意見を聴取する体制の整備

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-2

「車」中心から「ヒト」中心のエリアづくりに向けた空間の再編

④ アクションに関する具体的な取組（個別）

取組内容 5

歩いて楽しい沿道空間の実現



▲山口駅通りでの社会実験(R5.5)の様子
(第3回・第4回山口市まちなかウォーカブル推進会議資料より)



▲どうもん広場での社会実験(R5.5)の様子
(第3回・第4回山口市まちなかウォーカブル推進会議資料より)

取組の実施に向けた検討項目

- 沿道事業者による地先空間の活用を可能とする道路空間の活用スキームの検討
- 沿道における滞留・休憩スペースの確保
- 賑わいの創出に寄与するファサードの検討
- イベントなどで活用しやすいインフラ設備と運用方法の検討

目指す将来像のイメージ

- ②県立美術館周辺のイメージ (P28)
- ⑤早間田交差点でのイメージ (P31)

取組主体のイメージ

([]内は、今後作成する都市再生整備計画において事業及び事業主体を設定（予定を含む）するもの)

【取組主体】：県・市・沿道関係者

- 官×民**：エリアプラットフォーム等を活用した地域ニーズの深掘り
- 官**：道路空間の再編の検討整備
〔事業主体（県）：県道厳島早間田線（パークロード）、県道山口秋穂線（山口駅通り）〕
- 民**：沿道事業者による道路空間の利活用に向けた検討

実現に向けた課題等

- 道路本体と高質空間整備の区分や役割分担及び事業計画の策定
- 道路空間の再編を踏まえ継続的な社会実験による検証

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
(2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
(3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-3

商店街や文教施設等が連携したコンテンツづくり

① 関係者ヒアリングやWGで出された具体的な取組のアイデア（一例）

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| ■学校と連携して学生の作品をパークロード沿道に展示 | ■文教施設のコンテンツを気軽に見られる屋外ブースを設置 |
| ■文教施設と商店街で合同企画を実施 | ■文教施設の入館者にエリア内で使用可能な特典・クーポンを配付 |
| ■老朽化している文教施設のリニューアル | ■文教施設のイベントと連携したサインをエリア全体に設置 |
| ■パークロード沿道で店舗のスタートアップを支援 | ■Free Wi-Fiや充電スポットを設置 |
| ■勉強や食事ができる屋内フリースペースを整備 | ■エリア内に大学のサテライトキャンパスを設置 |
| ■空き家・空き地を活用した店舗の呼び込み | |

② 令和6年度に実施した社会実験の概要

社会実験名	文教施設と商店街連携社会実験
検証する仮説	商店街で出前講座等を開催することにより、文教施設の認知度が向上するだけでなく、両ゾーンの繋がりが強化されるのではないか
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ■中心商店街で県立図書館・博物館・美術館の出張講座や展示を開催 ■図書館：読み聞かせ講座、講座内容に関連する図鑑・本の展示 ■博物館：ものづくり講座、講座内容に関連する標本の展示 ■美術館：県立美術館サテライトショップ「HEART SPOT 102」を営業
主な検証項目	<ul style="list-style-type: none"> ■文教施設と商店街の連携による来館・来街意向への影響 ■文教施設と商店街の連携に向けた課題把握
実施日時	令和7年2月9日(日) 10~16時
実施場所	コトサイト（山口井筒屋2階）
実施体制	【主催】山口市 【実施】県立山口図書館、県立山口博物館 【協力】株式会社まちづくり山口
実施状況等	<ul style="list-style-type: none"> ■32組66人が講座に参加



▲社会実験の様子（コトサイトの出前講座・展示）

③ 社会実験から見えてきたまちづくりのポイント

- 今回の出張講座をきっかけに、中心商店街を回遊した人や、文教施設を訪れてみたいと感じた人が見受けられました。
- 実施者目線では、継続して開催していくためには、今後の取組内容の検討や人員・会場の調整など、企画・運営体制における課題が挙げられました。

1

はじめに

2

対象エリアの
基本情報

3

エリアの目指す
方向性

4

実現化方策

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

5

今後の
推進体制

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-3

商店街や文教施設等が連携したコンテンツづくり

④ アクションに関連する具体的な取組（一覧表）

	取組内容	取組主体 イメージ*	実施に向けた検討項目
1	文教施設と商店街が連携したイベントや講座の定期開催 (中心商店街における文教施設の出張講座の開催など)	県・市 ・民間	<ul style="list-style-type: none"> ■エリアプラットフォームを活用した連携・運営体制の構築 ■予算や人材等の確保
2	空き店舗やオープンスペース、公共空間を活用したまちなか における学生の活動拠点づくり (まちなかキャンパスの設置など)	市・民間 ・大学	<ul style="list-style-type: none"> ■「中心市街地活性化基本計画」における空き店舗対策等との連携 ■大学との連携 ■公共空間の管理者との情報共有と連携 ■空き物件等の耐震改修やリノベーションプランの依頼・提案を促進する仕組みづくり ■老朽化店舗の解体と新規活用に向けた支援スキームの構築
3	大学と連携したまちなかでのフィールドワークの実施	市・大学	<ul style="list-style-type: none"> ■大学との連携体制づくり

* 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます



▲みそのストリートギャラリー（和歌山放送ニュースより）



▲学生や市民によるフィールドワークのイメージ

1

はじめに

2

対象エリアの
基本情報

3

エリアの目指す
方向性

4

実現化方策

- (1)まちづくり推進に向けた考え方
- (2)エリアで生み出したい“シーン”の設定
- (3)“シーン”を生み出す“アクション”的設定

5

今後の
推進体制

(3) “シーン”を生み出す“アクション”的設定

ACT-3

商店街や文教施設等が連携したコンテンツづくり

④ アクションに関連する具体的な取組（個別）

取組内容 1

文教施設と商店街が連携したイベントや講座の定期開催



▲R7.2 中心商店街での社会実験チラシ

取組の実施に向けた検討項目（中心商店街における文教施設の出張講座の開催など）

- エリアプラットフォームを活用した連携・運営体制の構築
- 予算や人材等の確保

目指す将来像のイメージ

- ③中心商店街内のイメージ（P29）

取組主体のイメージ ※

【取組主体】：県(県管理の文教施設等)・市・民間

官 × 民

実現に向けた課題等

- 連携イベントや講座等の企画運営を継続していくために、社会実験を通じて得られた問題点や課題等を検証するとともに、取組主体となる関係者間で共有が必要

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-3

商店街や文教施設等が連携したコンテンツづくり

④ アクションに関連する具体的な取組（個別）

取組内容 2

空き店舗やオープンスペース、公共空間を活用したまちなかにおける学生の活動拠点づくり



▲まちなかキャンパスのイメージ
(まちなかキャンパス長岡 長岡市HPより)

取組の実施に向けた検討項目（まちなかキャンパスの設置など）

- 「中心市街地活性化基本計画」における空き店舗対策等との連携
- 大学との連携
- 公共空間の管理者との情報共有と連携
- 空き物件等の耐震改修やリノベーションプランの依頼・提案を促進する仕組みづくり
- 老朽化店舗の解体と新規活用に向けた支援スキームの構築

目指す将来像のイメージ

- ③中心商店街内でのイメージ（P29）

取組主体のイメージ ※

【取組主体】：市・民間・大学 官×民×大学

取組内容 3

大学と連携したまちなかでのフィールドワークの実施



▲R6.6 中心商店街でのフィールドワークの様子

取組の実施に向けた検討項目

- 大学との連携体制づくり

目指す将来像のイメージ

- ③中心商店街内でのイメージ（P29）

取組主体のイメージ ※

【取組主体】：市・大学 官×大学

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
(2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
(3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-4

来街者・若者等を呼び込む非日常を体験できるモノ・コトの創出

① 関係者ヒアリングやWGで出された具体的な取組のアイデア（一例）

- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| ■エリア内で宝探しゲームのようなイベントを開催 | ■地域住民、学生、行政が協力してイベント運営組織を結成 |
| ■コロナ禍前に行われていた蚤の市を復活 | ■夏の夜にビアガーデン、冬の夜にクリスマスマーケットを開催 |
| ■フリーマーケットや朝市の定期開催 | ■地域の大学と連携してエリア内で学園祭を実施 |

② 令和6年度に実施した社会実験の概要

社会実験名	若者が中心となったイベント企画・運営実験
検証する仮説	学生がプレイヤーとなって地域のイベント等を企画・運営すれば、エリア全体の来街者数が増えるのではないか
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ■クリスマスマーケット＆真冬のチョコレート祭りを開催 ■商店街店舗や市内事業者に加え、市内3大学の学生が出店、ステージ出演、運営の補助などを行った
主な検証項目	<ul style="list-style-type: none"> ■大学生等がイベントに関わることによる来街意向への影響 ■イベント開催による来街者の数や属性への影響 ■イベントの企画・運営に関する課題把握
実施日時	令和6年12月1日(日) 11時～17時
実施場所	山口市中心商店街
主催者	<ul style="list-style-type: none"> ■山口商工会議所 ■やまぐち地域共創プラットフォーム にぎわい創出WG（山口大学・山口県立大学・山口学芸大学・山口商工会議所・山口銀行・山口市）
実施状況等 (学生の内訳)	<ul style="list-style-type: none"> ■約1万5千人が来場 ■7団体（7団体）がステージ出演 ■33団体（9団体）が出店 ■運営補助として約50人の大学生が参加



▲社会実験の様子（クリスマスマーケット）

③ 社会実験から見えてきたまちづくりのポイント

- 今回のイベントをきっかけに、イベント等が開催されていない平時でも中心商店街に訪れたいと感じた人が多数見受けられました。
- 運営等に携わった学生目線では、地域イベントへの継続参加に意欲的な意見が多く、学校と連携した取組の情報発信・勧誘、まちづくりのプレイヤーと繋がれる場の充実などが求められています。
- 実施者目線では、イベントの継続実施に向けて、イベント内容の検討体制の充実、予算確保などについて、課題が挙げられました。

1

はじめに

2

対象エリアの
基本情報

3

エリアの目指す
方向性

4

実現化方策

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

5

今後の
推進体制

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-4

来街者・若者等を呼び込む非日常を体験できるモノ・コトの創出

④ アクションに関連する具体的な取組（一覧表）

	取組内容	取組主体 イメージ※	実施に向けた検討項目
1	大学生をはじめとした若者が持続的にまちづくりのプレイヤーとして関わることができる仕組みづくり	市・民間	■まちづくり関係者と若者(学生等)が交流し、つながることができる場の充実
2	クリスマスマーケットの継続実施及びイベント内容の磨き上げ	市・民間	■イベント内容の検討体制の充実や予算の確保等
3	市内3大学と連携した大学生への地域イベントなどの情報発信	市・民間・大学	■大学との連携体制の強化

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます



▲大学と連携した賑わい創出の取組イメージ
(新栄テラス 国交省HPより)



▲公共空間を活用したイベントのイメージ
(丸の内ストリートパーク 国交省HPより)

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-4

来街者・若者等を呼び込む非日常を体験できるモノ・コトの創出

④ アクションに関連する具体的な取組（個別）

取組内容 1

大学生をはじめとした若者が持続的にまちづくりのプレイヤーとして関わることができる仕組みづくり

取組内容 2

クリスマスマーケットの継続実施及びイベント内容の磨き上げ



▲R6.12 駅通りでのクリスマスマーケットの様子

取組の実施に向けた検討項目

【取組内容 1】

- まちづくり関係者と若者（学生等）が交流し、つながることができる場の充実

【取組内容 2】

- イベント内容の検討体制の充実や予算の確保等

目指す将来像のイメージ

- ④中心商店街内でのイメージ（クリスマスマーケット）（P30）

取組主体のイメージ※

【取組主体】：市・民間 官 × 民

取組内容 3

市内3大学と連携した大学生への地域イベントなどの情報発信



▲大学生まちなかチャレンジ事業 （岡山経済新聞より）

取組の実施に向けた検討項目

- 大学との連携体制の強化

目指す将来像のイメージ

- ④中心商店街内でのイメージ（クリスマスマーケット）（P30）

取組主体のイメージ※

【取組主体】：市・民間・大学 官 × 民 × 大

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “アクション”の設定

ACT-5

回遊を促進するモビリティ、設備等の充実

① 関係者ヒアリングやWGで出された具体的な取組のアイデア（一例）

- | | |
|-------------------------|----------------------------------|
| ■ シェアキックボードを導入 | ■ 駐車場の空き状況が分かるアプリを開発 |
| ■ シェアサイクルのポートを増設して範囲を拡大 | ■ 学生がまち歩きマップを作成して配付 |
| ■ 運賃が安く、高頻度で運行する回遊バスを導入 | ■ インフルエンサーと連携した広報活動 |
| ■ 使いやすいように駐車場を集約化または再配置 | ■ エリア内の施設を案内するサインや看板を充実化 |
| ■ 駐車場からの移動手段を充実化 | ■ 回遊することで商店街で使用可能なポイントが貯まる仕組みづくり |
| ■ エリア内を車が進入できない回遊エリアに指定 | |

② 令和6年度に実施した社会実験の概要

社会実験名	モビリティを活用した回遊性向上社会実験
検証する仮説	エリア内の移動手段が充実した状態であれば、エリア内の回遊性が向上し、通行者・来街者が増えるのではないか
実施内容	■ 市が実施しているシェアサイクルのポートを対象エリア内で5か所増設
主な検証項目	■ ポート増設によるシェアサイクル利用数の変化
設置期間	令和6年10月17日～令和7年1月15日（約3か月間）
実施者	山口市
実施状況等	■ 県立山口博物館、亀山公園（美術館北側）、亀山公園駐輪場、山口地方合同庁舎、菜花道門パーキングの5か所で増設 ■ 昨年の同時期と比較して対象エリア内の利用者数（発着数）が1.8倍に増加

③ 社会実験から見えてきたまちづくりのポイント

- ポートを増設したことによって総利用者数ならびにエリア内で乗り降りした人の数が前年よりも増加しており、移動手段の充実によりエリア内の回遊性が向上していることが伺えます。
- 発着ポートの情報に加え、シェアサイクル利用中の移動の軌跡なども取得することが出来れば、ポートの設置場所の改善などの検討も可能になります。



▲ 対象エリア内のポート設置場所

1

はじめに

2

対象エリアの
基本情報

3

エリアの目指す
方向性

4

実現化方策

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

5

今後の
推進体制

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-5

回遊を促進するモビリティ、設備等の充実

④ アクションに関連する具体的な取組（一覧表）

	取組内容	取組主体 イメージ※	実施に向けた検討項目
1	シェアサイクルポートの設置場所の最適化を通じたシェアサイクルの利用 促進	市	■新たな利用データの獲得と分析
2	新たな回遊促進方策の推進	市・民間	■新たなモビリティ導入の必要性の検討 ■駐車場の再配置・集約化の検討
3	案内板やサインの作成・設置	市・民間	■設置場所の検討
4	既存のまちあるきマップの一元的な情報発信	市・民間・大学	■取組主体の明確化

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます



▲グリーンスローモビリティ（福島県いわき市）



▲パーティーバイク（国交省HPより）



▲駐車場の集約化のイメージ[温泉街の再整備にあわせて
駐車場を整備した例]（長門湯本温泉駐車場HPより）

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-5

回遊を促進するモビリティ、設備等の充実

④ アクションに関連する具体的な取組（個別）

取組内容 1

シェアサイクルポートの設置場所の最適化を通じたシェアサイクルの利用促進



取組の実施に向けた検討項目

- 新たな利用データの獲得と分析

目指す将来像のイメージ

- ①亀山公園ふれあい広場でのイメージ (P27)

取組主体のイメージ ※

【取組主体】：市 官

▲亀山周辺ゾーンと中心商店街ゾーン シェアサイクルポート配置状況 (R6.10.17～R7.1.15)

実現に向けた課題等

- 亀山周辺ゾーンと中心商店街ゾーン間における利用状況（発着、利用時間等）の分析など、ゾーン間の利用実態の継続した把握
- ポート増設等による移動手段の充実等が、2つのゾーン間の回遊性向上につながるかどうかの検証分析

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

1

はじめに

2

対象エリアの
基本情報

3

エリアの目指す
方向性

4

実現化方策

- (1)まちづくり推進に
向けた考え方
- (2)エリアで生み
出したい“シーン”
の設定
- (3)“シーン”を生み
出す“アクション”
の設定

5

今後の
推進体制

(3) “シーン”を生み出す“アクション”の設定

ACT-5

回遊を促進するモビリティ、設備等の充実

④ アクションに関連する具体的な取組（個別）

取組内容3

案内板やサインの作成・設置



▲エリア内に設置されている案内板（亀山公園）



▲デジタルサイネージの設置例（JR新山口駅自由通路）

取組の実施に向けた検討項目

- 設置場所の検討

目指す将来像のイメージ

- ②県立美術館周辺でのイメージ（P28）

取組主体のイメージ※

【取組主体】：市・民間

官×民

実現に向けた課題等

- 各エリアにおける既存の案内板やサインの現状を把握し、問題点等を抽出
- 回遊資源や誘導施設の配置状況、エリア内の人流特性を踏まえた計画の検討

取組内容4

既存のまちあるきマップの一元的な情報発信



▲中心市街地周辺で作成されているまちあるきマップの例

取組の実施に向けた検討項目

- 取組主体の明確化

取組主体のイメージ※

【取組主体】：市・民間・大学

官×民×大学

実現に向けた課題等

- 取組内容3との連携

※ 取組主体イメージについては現時点で想定したものであり、今後の検討の中で役割分担も含め決定していきます

(1) 今後の推進体制

■ 基本的な考え方

令和5年10月に山口県の持続可能なまちづくり集中支援事業の採択を受け、県や民間アドバイザーの支援のもと、「亀山周辺・中心市街地まちづくり・アクション会議」での議論や検討を経て、「山口市亀山周辺・中心市街地活性化アクションプラン」をとりまとめました。

今後、官民横断的なまちづくりの方向性の確認や、事業共有の必要性が生じた場合は、適宜、アクション会議を開催します。

また、本プランの実現に向け、地域や民間、行政が対象エリアにおける取組を実施する際に、次の3つの視点を踏まえ、取組を推進することを期待します。

【エリアにおける取組推進の流れ】

**フェーズ
1**

①官民横断的な連携を拡充

- 一体的なまちづくりの推進に向け、「山口市中心市街地活性化協議会」や「山口市まちなかウォーカブル推進会議」などの対象エリアに関連する各会議体が相互に連携、情報共有をしっかりと行う。

**フェーズ
2**

②取組のアイデアを具体化・事業化

- 既存の会議体などを中心に、本プランで位置付けた“アクション”と関連する取組のアイデアを継続的に吸い上げるとともに、そのいくつかを官民において社会実験や具体的な事業としての実施を検討する。
- 既存の会議体における検討が難しいテーマ・取組については、適宜、検討部会の立ち上げなどを検討する。

**フェーズ
3**

③プランに基づくまちづくりの推進

- エリアのまちづくりに係る幅広いプレイヤーが本プランを共有し、地域・民間・行政における計画や取組、事業へと反映する。
- まちづくりの各種取組を継続的に把握しつつ、必要に応じて計画の更新を行うなど、PDCAサイクルを回しながらまちづくりを深化させる。